

2007 CSR Report

環境・社会活動レポート

To be a company that links people with people,
people with nature, and companies with society



人と人、人と自然、 企業と社会をつなぐ企業であるために。

食品容器を介し、食卓に笑顔をもたらすこと。

エフピコ方式のリサイクル「トレーtoトレー®」を広め、環境保全への意識を高めること。

より機能的な製品の提供を通じ、企業と社会の活性化を支援すること。

それは私たちエフピコグループにとって、永遠のテーマです。

その実現を目指し、私たちは2006年度から

「環境経営5ヵ年計画」をスタートさせました。

本誌は、その初年度の進捗状況をまとめたものです。

ぜひご覧いただき、私たちの取り組みについて

ご理解いただければと思います。

人と自然と社会をつなぐ企業を目指して。

私たちエフピコグループは、これからも挑戦を続けてまいります。



●製造

株式会社エフピコ仙台
株式会社エフピコ山形
株式会社エフピコ下館
株式会社エフピコ茨城
株式会社エフピコ中部
株式会社エフピコ箕島
株式会社エフピコ福山
株式会社エフピコ笠岡
株式会社エフピコ神辺
株式会社エフピコ佐賀
株式会社エフピコエンジニアリング
株式会社ダックス
株式会社ダックス四国
株式会社ダックス佐賀
広島愛バック株式会社
エフピコ愛バック株式会社
株式会社ノダヤ
テイカ精密株式会社

エフピコグループ 株式会社エフピコ

●物流

エフピコ物流株式会社
エクセル物流株式会社
エフピコピッキング株式会社
エフピコ中部物流株式会社
エフピコ関東ピッキング株式会社
エフピコ九州物流株式会社
株式会社アイ・ロジック

●商社

エフピコ商事株式会社

●その他

株式会社クックラボ

●小売

株式会社エフピコモダンバック

●販売

エフピコチューパ株式会社

2007年7月1日現在

エフピコグループについて	P1
CONTENTS	P2
編集方針	P2
トップインタビュー	P3
社内ダイアログ	P11

経営面における取り組み

経営スローガン・会社概要	P15
主要な経営指標	P16
コーポレートガバナンス	P17
内部統制システムの整備	P18

環境面における取り組み

環境方針	P21
環境マネジメント体制	P22
環境経営5カ年計画の進捗状況	P23
物質の流れ	P25
製品開発における配慮	P27
工場における配慮	P29
流通・販売における配慮	P31
オフィスにおける配慮	P33
取り組みの成果	P35

社会面における取り組み

消費者とのかかわり	P37
株主とのかかわり	P39
従業員とのかかわり	P40
お客さまとのかかわり	P41
地域とのかかわり	P42
工場見学のご案内	P44
エフピコのあゆみ	P45

編集方針

この「CSR Report 2007」は、エフピコの2006年4月から2007年3月までの環境と社会活動における取り組みをまとめたもので、以下の方針に沿って編集しました。

- エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるように、各活動に対する考え方やこれからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。
- 2006年4月から2011年3月を対象として挙げた「環境経営5カ年計画」の第1年目にあたる2006年度のエフピコの成果と、現状をふまえてのこれからの姿勢を客観的に表現しました。
- レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告書ガイドライン（2004年度版）」を参考にしました。
- 対象期間
2006年4月1日～2007年3月31日
- 対象範囲
（株）エフピコおよびエフピコグループを対象としました。





人と自然と社会に貢献できる 企業であり続けるために。

私たちエフピコは、消費者の皆さまやお取引先様からのご支援のおかげで、国内における高いシェアを維持しております。これからは、より一層高品質な製品をお届けすることはもちろん、安心してお取引いただける安定した経営の実現、環境負荷の低減、企業市民としての社会的責任の遂行という、いわゆる「トリプル・ボトムライン」に配慮した成長を実現できるよう努力してまいります。

株式会社エフピコ代表取締役社長

小松安弘

リサイクルへの チャレンジ

まずは発泡スチロールトレーのリサイクルをはじめたきっかけについて教えてください。

1989年ごろのことですが、私がアメリカの容器業界の集まりに参加したときに、向こうの大手ハンバーガーチェーンの容器担当者と話す機会がありました。当時このハンバーガーチェーンでは、商品をテイクアウトする際に、発泡スチロールでできた「クラムシェル」と呼ばれる容器を使っていました。発泡スチロールは、温かい商品を温かいまま長時間保温するのに最適な素材だったわけです。

ところが、アメリカでは、日本よりも一足早く「省エネルギー・省資源」の機運が高まり、

貴重な石油を原料としながら使い捨てられている「クラムシェル」に対し不買運動が起こったのです。その容器担当者は「クラムシェルへの反発は強く、使用を止めざるをえない」と話していました。現在、このハンバーガーチェーンでは、テイクアウトの際は、包み紙か紙ケースを使用しています。

その話を聞いて帰国した私は、この流れが日本に及べばハンバーガーチェーンの「クラムシェル」だけではなく、日本における食品トレー業界自体の存続が危うくなると考えました。そして、熟考を重ねた結果、資源を再生利用するリサイクルにチャレンジすることにしたのです。たとえ発泡スチロールトレーを使用していても、トレーがリサイクルされれば、環境への負荷は低く抑えることができるはずですね。しかし、業界にその必要性を訴え、協力を求めましたが、当時は賛成してくれる会社はありませんでした。ですから、私たちは単独で実行に移すしかなかったのです。

リサイクル事業の立ち上げは、スムーズでしたか？

先ほどお話したとおり、トレーのリサイクルを始めるにあたっては、業界各社から反対されました。思えば、私たちが他社に先駆けて、白一色だったトレーに木目やカラーのプリントを始めたときにも、大変長い期間反対にあったことがあります。ただ、その時どの会社よりも早くそういった対応をできたことが、後にエフピコをここまで大きくしてくれたのだと思います。ですからリサイクルについても業界の反対は想定済みでしたし、単独でも実行に移すつもりでした。リサイクルによって、利益が1億・2億減っても仕方ない。長い目で見れば、このチャレンジはきっとプラスになる。そう信じてやっていたから。ただ正直なところ、最初のうちは環境を守るためというよりは、会社や社員そして業界を守ることが目的だったように思います。「発泡スチロールトレー＝環境や社会に対して悪いもの」という図式が広く認知され、消費者団体等から忌避されるようになることは、特に私たちのような専門メーカーにとっては大打撃です。ですから、まずは「トレー＝悪」という図式を崩す必要があったのです。もしあの時リサイクルへのチャレンジに踏み切っていなかったら、きっと今のエフピコも業界ももっと違ったものになっていたでしょう。





リサイクル事業の進展は順調ですか？

おかげさまで、順調に利益をあげています。いま私たちの主力商品である「エコトレー」は、発泡層がリサイクル素材でその両面に、石油から新たに作った素材(バージン素材といいます)をフィルムラミネートして使用しています。ここ数年、原油価格の高騰でバージン素材の価格は大きく上昇しており、バージン素材だけで製造しているメーカーは非常に大変な状況にあるようです。しかしエコトレーは、リサイクル素材を中心としているため、その影響はごく限られた範囲にしかありません。必要に迫られて始めたリサイクルではありましたが、エコトレーに関しては原油高の影響を抑えることができています。また、こうしたトレーの輸送はほとんど空気を運んでいるよう

なもので、どうしても輸送コストが大きくなってしまおうのですが、これを、広島なら広島に工場を作って近隣で売ろう。再生工場も隣接させて、配送トラックの帰り便で回収もさせよう。そうすれば、運賃もより安くでき、原料費も節約できる。その結果、コストを下げることも可能になりますから、より製品の競争力は高まり、マーケットを大きくすることも考えられるわけです。私たちは、早くから製造拠点と配送拠点、さらにはリサイクル拠点までもをセットにした拠点を全国各地に作り、製造から配車・配送までのSCMシステムを整備することで、少数の拠点から全国に発送しているメーカーに比べ、非常に低コスト、かつフットワーク良くお客様への対応を行うことが可能となっています。



エフピコが大切にしていること

エフピコが大切にしていること、についてお聞かせください。

消費者や流通の方々が求めている品質や機能を実現できるよう、努力することでしょうか。

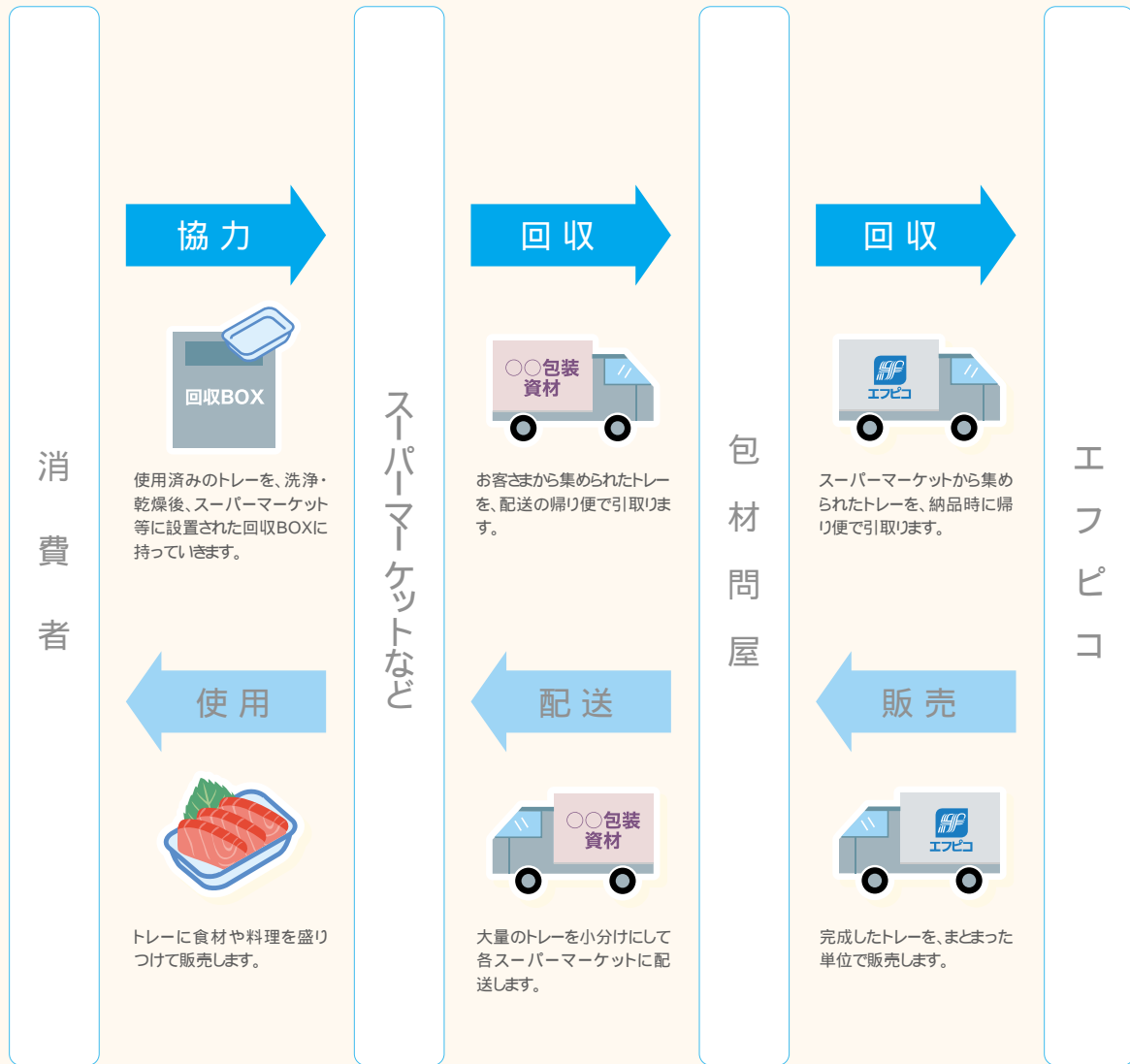
私たちの仕事は、直接のお客さまであるスーパーさんがいろいろと頭を絞って考えられている売り方に対して、容器メーカーとしての知識や経験、さまざまな現場を見てきた体験等を活かしながら、より消費者に強くアピールするためにはどのような売り方が考えられるかを提案することです。「お客さまである小売店に利益をもたらすことができなければ、私たちも繁栄しない」とも言いましょうか。しかし、そのためには有効なプランを提案するためのさまざまな情報を他社に先駆けて集めて、消費者や流通の方々がどのような商品を求めているのかをいち早く汲み取り、それを活かした製品を用意する必要があります。たとえば「もっと大きいサイズが欲しい」「もっと高級感あるデザインの容器がほしい」といった要望や、「汁が漏れて手がベトベトした」といった苦情をこまめに集めて、それらに応えることのできる製品を作るために研究を重ねていくわけです。汁が漏れにくい角度を電子顕微鏡を使って検討したり、素材の組み合わせを考えたり、陶器などを参考にしながら容器の形を考えたり。さまざまな角度から検討を重ねていますから、新製品を発表しても「はずれる」ことがあまりありません。これも消費者や流通の方々の声を丹念に集めて、ニーズを意識しながら開発している結果であると自負しております。

また、私たちの営業担当者はさまざまな店舗で、さまざまな現場を見ています。そこでの経験を生かして、他の店舗で効果のあつ

たディスプレイ方法を紹介したり、売り場全体の演出について助言したりと、容器にとらわれず、幅広く売り場演出のお役に立てるよう、日頃から情報収集などにも努めています。それからもう一つ。「食品トレー」という、食品に関連する製品を作る企業として、やはり衛生面での配慮は欠かせません。リサイクルトレーを発売した当初は「リサイクル素材は不潔だ」といった中傷めいたクレームをいただいたこともありましたし、消費者や流通の方々に衛生面での不安があったのも事実であると思います。トレーは一度溶かして高温処理するため、リサイクル素材に関する衛生面での問題はないのですが、再生ペレットの中から抜き出したサンプルを、毎月公的機関で検査してもらっています。もう16年くらいになりますが、問題があったことは一度もありません。12年前には、材料のサンプルをFDA(米国食品医薬品局)に持ち込んで検査をもらい、問題なしのお墨付きももらっています。両面をパージン素材でフィルムラミネートしているので、より安心してご使用いただいています。

私たちは「人と人、人と自然、企業と社会をつなぐ企業であるために」という言葉を、経営のテーマとしてかかげています。消費者や流通の方々にご満足いただける、しっかりとした製品づくりを行うことは大前提ではありますが、ただ製品を作るだけではなく、その過程や周辺において、どのように人に、自然に、社会に貢献できるのかを常に考えています。

トレーリサイクルの流れ



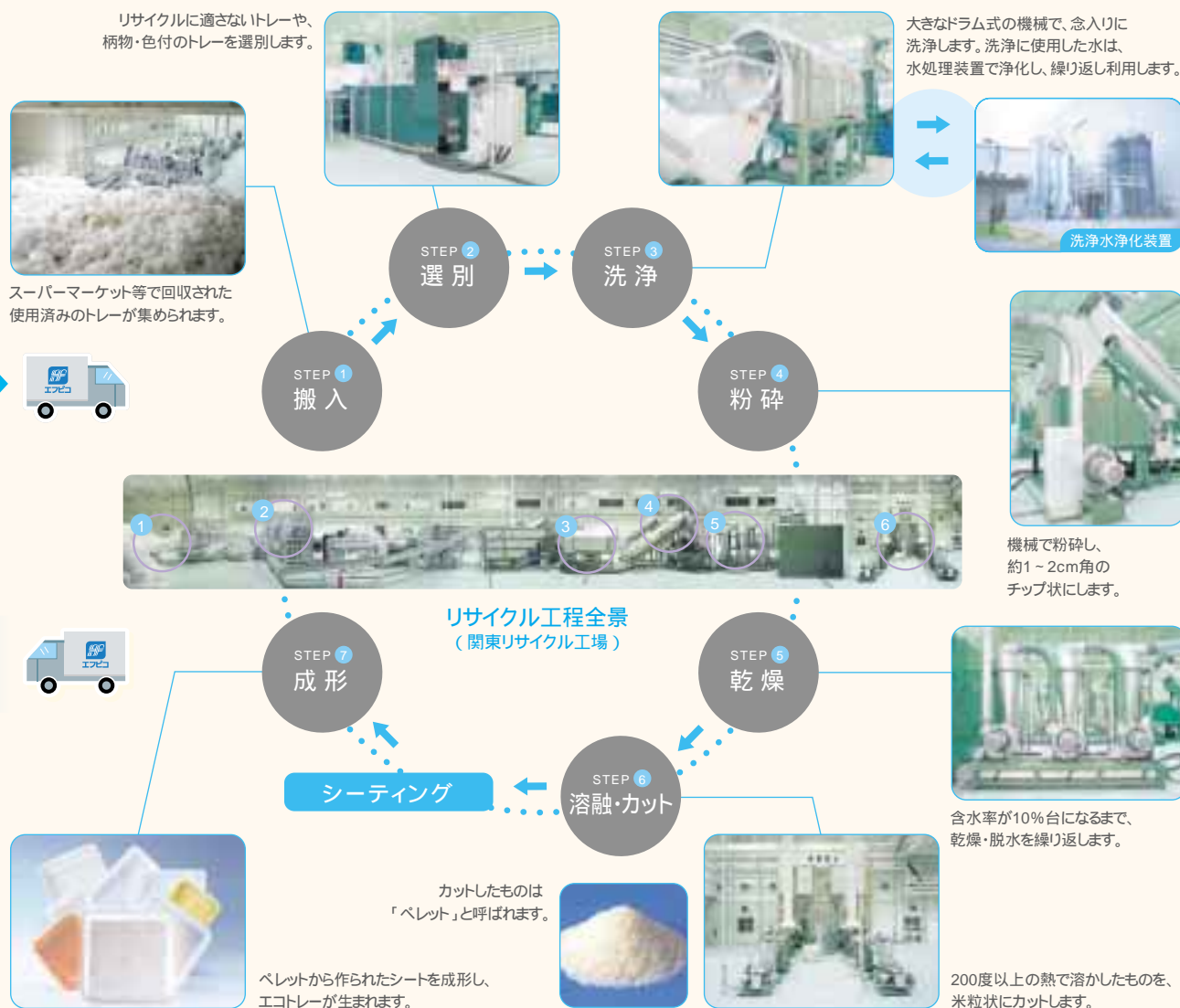
社会への貢献とは具体的に どのようなことを考えていますか？ または行なっていますか？

地域のイベント等への積極的な参加や、地域美化への協力はもちろんですが、それ以外にも、地元の小学生を招いて工場見学会などを行っています。スーパーで回収されたトレーが、どのように処理され、どのように再生していくのかを、現場を実際に見てもらうことで理解を深め、環境教育に役立っていただくことが目的です。工場見学に来られた子供たちから、お礼の手紙などをもらうこともあります。嬉しいものですね。

それから、私たちのグループ企業に「ダックス」という会社がありますが、こちらでは障がいを持った方を中心に雇用を行って

います。現在、千葉・佐賀・高知の3カ所で、製品の加工作業等を行っている会社ですが、障がいを持つ従業員に法で定められた賃金を払いながらも、しっかりと利益を計上できています。現在、法定雇用率(法で定められた雇用率)は1.8%ですが、私たちは8.5%。これは上場企業の中ではトップクラスなのではないでしょうか。地域に根ざした企業として障がいを持った方々にも積極的に働く場を提供することで、地域の産業活性化を促し、障がい者の自立支援を行っています。私たちは、障がいを持つ方々と健常者が、ともに協力しあうことで、ともに幸せになれる社会づくりを率先して

リサイクル工場



いきたいと考えています。

さらに付け加えるならば、私たちの仕事は、本来の業務そのものが「省エネルギー」「省資源」「環境保全」といった観点から、社会に貢献する性質のものと考えています。私

たちの2006年度のリサイクル活動で節約された原油は1,560万リットルに匹敵します。また、エコトレーを製造することで、新しくトレーを製造した場合と比べると、4万2,500トンのCO₂の排出量が削減されたことになります。

ただ製品を作るだけではなく、どのように人に、自然に、社会に貢献できるのかを常に考えています。

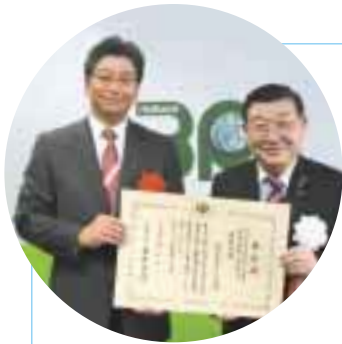
容器提案のプロフェッショナルとして、 お客さまとのお付き合いを深めながら ニーズを的確に捉えた製品をお届けしたい。

これからのエフピコについての課題、
あるいはエフピコの目指す姿について聞かせてください。

企業には「経済的側面」「環境的側面」「社会的側面」という3つの評価基準があります。いわゆる「トリプル・ボトムライン」というものですね。この3つのウェイトがバランスよい状態で成長していけるのが、良い企業の姿であり、持続可能な発展ができるのだと考えます。もちろん私たちも例外ではありません。高い利益をあげ株主に利益を還元する「経済的側面」、トレー-toトレーシステムを中心に製品づくりを通じて環境保全に貢献する「環境的側面」、本来業務そのものの社会貢献的な色合いを活かしながら、環境教育への協力や障がい者雇用を推進する「社会的側面」。現在エフピコにはこの3つが、良いバランスで存在しています。このバランスを保ちながら、さらなる成長を続けていければ、と考えます。また、容器メーカーとして、よりお客さまと社会の要請に応えた製品づくりを進めていきたい、と思っています。たとえば新しく開発したコンビニ弁当用のハイスター容器は、通常より1.8倍発泡させた素材で作った物です。このことにより従来のPPファイラー容器と比較して、まず重量が約56%になりました。すると、発泡している分、資源を使わない。さらに発泡しているために熱が伝わりにくく、やけどの心配も少ない。素材も外観もそのままなのに、加工時にひと工夫くわえるだけで、消費者、流通、環境、そして安全にも、より一層配慮した製品となりました。こうした工夫で、さらに便利で、さらに安全な、より消費者に受け入れられやすい容器をご提案できる余地はまだまだあると考えます。

すでに日本では、高齢化と、それに伴う「個食化」が進行しつつあります。そのような社会構造の変化の中で、たとえば容器のニーズ自体も、小食のお年寄りや、一人暮らしの方が買やすい小さなサイズのものや、一度開けても再度フタを閉められるものなどに移りつつあります。そういった変化を見逃さず、容器提案のプロフェッショナルとして、お客さまとのお付き合いを深めながらニーズを的確に捉えた製品をお届けしたい。容器メーカーとして、私たちが自信を持ってお届けする製品の品質や機能を通じて、消費者の方々の暮らしを豊かに、便利にするお手伝いができるような、そんなメーカーになりたい。それが、私たちの願いでもあるのです。





第1回 「容器包装3R推進 環境大臣賞」で エフピコが最優秀賞に選ばれました。



リデュース(省資源)リユース(再使用)リサイクル(再資源化)の、いわゆる「3R」を推進するために、環境省が平成18年に創設した表彰制度「容器包装3R推進 環境大臣賞」。その第1回の選考で、私たちエフピコが製品部門の最優秀賞に選ばれました。今回の受賞は、応募総数120件(うち製造部門は60件)の中から選出されたもので、エフピコの主力製品である「エコトレー」の製造において消費者との連携を進めながら、経済性とリサイクル性を両立させたことについて、高い評価をいただいたものです。2007年4月11日には環境省で授与式が開催され、若林正俊環境大臣から、表彰状が手渡されました。

各部門の最優秀賞を受賞した企業・団体

製品部門

株式会社エフピコ / 広島県
(食品トレーの回収・リサイクル)

小売店部門

京都生活協同組合本部 / 京都府
(レジ袋有料化・マイバッグ運動の推進)

地域の連携協働部門

びん再利用ネットワーク / 東京都
(規格統一したリターナブルびんの普及)

用語解説 本誌中に登場する、分かりにくい用語をまとめました。

ステークホルダー

企業に対して利害関係を持つ人。社員や消費者や株主だけでなく、地域社会までもを含む。

コンプライアンス

法令順守。特に、企業活動において社会規範に反することなく、公正・公平に業務を遂行することをいう。

ゼロエミッション

地球の限られた資源の使用効率を高め、廃棄物(エミッション)がゼロになることを目指すという考え方。

グリーン購入

消費者や企業、行政機関などが、環境に配慮した商品を優先して購入する仕組み。

3R

Reduce(リデュース:省資源) Reuse(リユース:再使用) Recycle(リサイクル:再資源化)の頭文字を取って「3R」と呼ぶ。

マテリアルリサイクル

使用済製品を回収し、原材料として再利用すること。

シーティング

ベレットからシートを作る工程を指す。

ラミネート

アルミ箔、紙、フィルムなどの薄い材料を張り合わせて層をつくること。「エコトレー」の場合はポリスチレンフィルムを貼り合わせる。

容器包装リサイクル法

省資源、再使用、再資源化の「3R」を推進し、循環型社会を形成するために、容器包装の分別収集等を定めた法律。正式名は「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」。「容リ法」とも略される。

PET

ポリエチレンテレフタレート(PET)の略称。化学的にも非常に安定した素材。ペットボトルや衣料品等にも使われる。

PP

ポリプロピレンの略称。石油精製で得られるプロピレンガスを原料としたプラスチック。薬品への耐性に優れ、食品容器等に広く用いられる。

PPファイラー

PPに無機充填材(タルク)を配合した素材。耐熱性に優れ、弁当・惣菜等の耐熱容器に使われる。

PP発泡

PPを発泡した素材。軽量かつ耐熱性に優れ、耐熱食品容器に使われる。

PS

ポリスチレンの略称。石油精製で得られるスチレンモノマーを原料としたプラスチックで、成形加工しやすい特徴を持つ。食品トレーのほか、家電の外装にも用いられる。

PSP

発泡ポリスチレンペーパーの略称。主にスーパーマーケット等で使われている発泡スチロール製食品トレーなどに加工される。

社内ダイアログ 環境保全への取り組みを現場担当者が語る

「環境経営5ヵ年計画」 1年目の現状と課題。



2007年4月4日(水)、エフピコ東京本社の会議室において、各部門の現場で、環境負荷低減に取り組んでいるスタッフが集まり現在の進捗状況と、実際に取り組んでみて浮彫りにされた課題について、意見交換を行いました。

参加者

後列左から	前列左から
松井 泰雄：(運輸部門)	垣原 操：(製造部門)
福重 宏敏：(営業部門)	工藤 紗矢：(環境部門)
三浦 昌子：(オフィス部門)	井上 達弘：(CO ₂ マネジメント委員会)

計画1年目を終えて

昨年の「環境経営5ヵ年計画」開始から1年が経過しましたが、進捗状況はいかがですか？実際に試してみて、感じていることなどを聞かせてください。

垣原 製造部門は工場が大量の電気を使うので、まずは電力削減に取り組みました。無駄な照明はこまめに消す。廊下や資材置き場などは、不便のない程度に蛍光灯を抜いて照度を落とす。生産ラインの成形機やコンベアにセンサーをつけ、製品が流れていない時は自動的に停止する設定にする、といった具合です。また機械の稼働効率向上による省エネ実現にも取り組んでいます。



と、ここまで話しておいて矛盾しますが、一番難しいのは機械の改良ではなく、人に協力してもらうことだと思いますね。

福重 営業部門は、こまめな電気機器のON/OFFと照明の照度ダウン、クールビズ/ウォームビズの導入を行い、すでに20%程度の電力削減を実現しました。それから、社員に交代でゴミ当番を担当してもらうことで、環境保全意識を高めています。また、今年から紙カップの使用をやめてマイカップの持参をお願いしました。結果、それまで週に約270個だった紙カップが0になりましたが…。困ったことに、缶やペットボトルの廃棄量が増えています。洗うのが面倒、という人が多いのだと思いますが…。

工藤 缶やペットボトルは重いから、それが増えると廃棄物の重量はかえって増えてしまうんですね。

どんな機械も人が動かすもの。
人との付き合いが一番難しいですよ。
(垣原)



言葉だけではなく、実際に行動してみせることが大切なんですね。
(松井)

環境問題解決の鍵は「意識」

ひととおりお話をうかがった中で、いくつか課題が見えてきたように思います。その中の一つが人間関係の問題。たとえば、今までこんな取り組みをしたら良かった、あるいはダメだった、といった実例はありますか？

福重 そうなんです。垣原さんのお話にもありましたが、その他の取り組みについても協力してくれる人と、協力してくれない人がいますから、社員全員の意識を底上げするのは大変です。

松井 運輸・物流部門では、パート従業員が多いのが特徴です。社員間でも協力体制を築くには時間がかかるのに、また違った立場の方がいるわけですから、そこで共通の意識を育てるのは非常に難しいです。

それに、物流現場では複数のチームが作業しているため、なかなか思い切った活動に踏み切れません。皆の休み時間が揃えば、その間照明を消すこともできますが、作業中のチームがあればそうもいきなりできません。

また物流は他の部門と違って、物量が増えるほど廃棄物も増えるんです。なるべく減らすよう努力はしていますが…。

三浦 東京本社では、オフィスの照明スイッチを、照明エリアを細かく選べるタイプに交換しました。必要なエリアのみの点灯を可能にすることで節電効果を高めています。電気工事には費用がかかりましたが、すでにそれ以上の成果が出ていますね。

廃棄物に関しては、東京本社はテナントビルに入居しているので、ゴミ処理はビル側がしてくれます。ですが、そのため社員の環境意識は他の拠点と比べても低いんです。オフィス内に設けたゴミ集積所を「資源分別ステーション」と名付け、リサイクルの意識付けをしていますが…やはり守らない人はいますし、どう訴えていくか難しいところなんです。先ほど「社員が交代でゴミ当番を担当する」というお話がありましたが、そういう取り組みスタイルの方が、皆の意識付けは効果的にできると思います。

福重 確かに、皆で分担するようになってから、関係ないゴミが混ざることが少なくなったように思えます。

垣原 そうですね…いまは部下に説明するときには、極力数字を出して具体性を持たせること、そして「節約はお金になる」ことに気付かせるようにしています。いま現場では、副社長の提案で製造指示書にそれぞれの部材の単価を入れているんです。ケース1枚いくら、と。コスト意識を持たせることが目的ですが、それは「今使用している原料はいくらだよ」「この作業をすると、いくら節約になるんだよ」といった風に、省エネ活動に対して実感を持たせることにも役立っています。

松井 物流では、作業効率を高めるための意識づくりとして、実績収集システムを活用して各個人の生産性を社内に提示しています。実績に基づいて教育することで生産性意識が向上し、実績が上がってきてますよ。

分別についても、最初は機能していませんでしたが、自分で「カラートレーはココ」「透明ふたはココ」と実行してみせることで、ようやく機能しはじめました。やはり言葉だけではなく、実際に目の前で行動してみせることが大切なんですね。

各部門において、さまざまな取り組みが成されているようですが、こういった情報を共有する場、というのはあるのですか？

井上 CO₂マネジメント委員会の事務局では、「現況調査」としてエコアクション21のシステムを活用して全国の拠点からデータを収集しており、それを元に公表数字を作成したり、各部門に活動プログラムを作成していただいています。また、その年度の実績について年1回、各工場・拠点とテレビ会議で話し合っています。その他にも、環境対策室が主体となって、半年に1回、環境関連の全社的な教育を西日本と東日本で行っています。

工藤 「東京地域安全衛生委員会」の会議の中でも、各営業所の取り組みを、相互に報告しあっています。また、環境対策室には各拠点の情報は集まっていますが、それを情報共有するには至っていません。それが実現できれば、一つの工場・拠点の取り組みを、もっと他の拠点にも活かせるかもしれません。

福重 そうですね。工場や拠点には、数字は送られて来んですが、手法は見えないんですね。こういった取り組みをした結果なのかがわからない。

井上 それは事務局としても課題の一つです。たとえば、名古屋で成功した取り組みについて、他の拠点でも活用できる仕組みは作っていきたいですね。逆に製造の方に質問したいのですが、私たち事務局は各工場とそれぞれ連絡を取っていますが、工場間でのコミュニケーションというものはあるものですか？

垣原 全社のイントラネットを通じて、各工場の活動プログラムを見ることはできますから、計画を立てる時など、似た規模の工場のデータを参考にすることはありますね。改めて情報交換の場、というのはありませんが、工場の担当者間では「あの機械にインバーターをつけたよ」とか、そういった情報交換は行っています。

やはり、意識を高めるためのコミュニケーションというものが、これからの課題であるように思いますが、事務局としてはどう考えますか？

井上 現場のリーダーが核となって、社員に対して「今期はこういうことに取り組む」とか、「この取り組みはこういう目的で行うんだ」といった説明をしながらコミュニケーションを取ってほしいですね。事務局としては、そのリーダーに情報提供をする形が理想です。

また、各部門で取り組んでいる目標は、どこかで全社的な目標につながっています。現場にいと、会社全体の目標は見えにくいですが、現場の取り組みがあって、はじめて全社で目標を達成できるわけです。いま目の前にある課題が大きな目標に繋がっていることをしっかりと伝えられるよう、コミュニケーション方法についても考える必要がありそうです。



助走期間は終わりました。
今年からが本番です。(井上)

2年目に向けての課題

助走期間が終わって、これからが効果が現れる年だと思いますが、今後の取り組みについて具体的な計画はありますか？

井上 一つ目は、まず成果を正しく評価するために数字の精度を上げたい。二つ目には、各工場・拠点の活動プログラムや取り組みを充実させたい。やはり、実行するのは各工場・拠点になるわけですが、同じようなことばかりをやってもしょうがないですからね。来年は、よりレベルを上げたいところです。それから、各部門に情報提供できる体制を整えたいですね。たとえば、いま各部門に、「電力削減」「紙資源削減」「グリーン購入」等のテーマで目標を立ててもらっているのですが、こうした情報を部門間で共有できるように情報提供したり、あるいは、どこかの部門でいい原単位で実践されているのなら、それを紹介したりできるといいですね。

逆に、現場からは事務局に対する要望等がありますか？

福重 いま、帳票類の電子帳票化に伴い、受注伝票等について保管するものと廃棄するものの分類を行っているのですが、たとえば伝票ひとつについても、保管の要/不要についての基準を明らかにしてもらえると、迷わず作業できます。また、先ほどの話にもありましたが、札幌や九州の拠点でどんな取り組みをしているか分かる仕組みがあると嬉しいですね。

松井 物流だけではなく、他部門との情報交換も必要かと思えます。現在、役職者を中心とした情報交換は行われていますが、現場にいない役職者が、それらの情報を上手に落とせるか、というのも疑問です。現場向けの交流会や講演会のようなものがあればいいのですが。

それから、昔は違った拠点で働いていても、新年会などで顔を合わせる機会がありましたが、今はそういう機会もなく、知らない顔も増えました。たとえば中堅クラスの社員が顔合わせをする、イベント的なものがあったらいいのかな、と思います。

三浦 会社全体の目標が分かりやすく説明されたポスター等が欲しいです。パソコンがなくても、全社員がメッセージを共有できるようなものがいいですね。

また、さきほど話題に登りましたが、各部門の取り組みを発表する場が欲しいです。それぞれの部門の取り組み経験を共有することで、より業務の効率化が図れると思います。



決まりごとを守ってもらうために、どう訴えかけるかが難しいです。(福重)

みんなに協力してもらうためには、情報の共有が必要だと思います。(三浦)



垣原 環境対策の取り組みについて言えば、現場の担当者は本来業務に加えて、ひとつ余計に仕事を抱えることになります。ただでさえ下がりそうな現場の士気を上げるには、上の立場である役職者の意識を、もっと高めてもらう必要があると思います。せっかく現場ががんばって対応を考えたとしても、おかしな答が返ってくるようでは、士気も下がってしまいますよね。たとえば工場長会議などの場で「うちではこうやってるよ」といった情報交換を行うことも有益ではないでしょうか。

井上 なるほど。事務局としても、いろいろと有益な情報と課題をいただけたように思います。これからも、現場の皆さんの声をなるべく活かしていきたいと思います。ありがとうございます。

ダイアログを終えて CO₂マネジメント委員会 委員長 歌島 秀明

今回は、現場からの率直な意見を聞くことができ、大変意味のある集まりになったと思います。一連の取り組みは、法律によって定められているからでも、社会的な風潮からでもなく、いま顕在化している地球温暖化や汚染、廃棄物の増加等に対して、企業がその社会的責任を果たすための、自主的な取り組みと捉えるべきです。

今回浮彫りにされたいくつかのテーマについて、委員長として以下の実行を宣言します。

- 1、設定された目標を全社で共有できる仕組みの再構築を行います。
- 2、部門を超えた、情報共有の場を設けます。
- 3、現場だけではなく、役職者からの意識改革に取り組みます。



経営スローガン・会社概要

私たちエフピコは、顧客第一主義の経営方針のもと、『環境・安全・安心・健康』を追求しています。人にとって、もっとも大切なフィールドの一つである食生活の中で、お客さまの立場に立った製品づくりやサービスの提供を目指しています。

経営スローガン

人と人、人と自然、 企業と社会をつなぐ企業であるために。

多彩な食品トレーで華やかな食卓を演出し、コミュニケーションを円滑にすること。使用済みトレーのリサイクル体制を整え、自然環境への負荷を抑えること。食品容器という製品を通じて「食」ビジネスを支援し、安全・安心・環境保全といった社会のニーズに応えること。

私たちエフピコは、これらの課題を高いレベルで実現するために、スローガンを経営の基本方針として位置づけ、それに基づいた経営を行っています。人の暮らしの根幹を支える、「食」に関わるメーカーとして、安全であることはもちろん、環境負荷の低い製品をお届けできるよう、日々改善を続けています。

企業プロフィール

商号 株式会社エフピコ
 設立 1962年(昭和37年)7月
 代表者 代表取締役社長 小松 安弘
 資本金 13,150百万円
 従業員数 627名(エフピコグループ: 2,488名)
 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
 本社 〒721-8607
 広島県福山市曙町一丁目12番15号
 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
 東京本社 〒163-6036
 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
 新宿オークタワー(総合受付36階)
 TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811

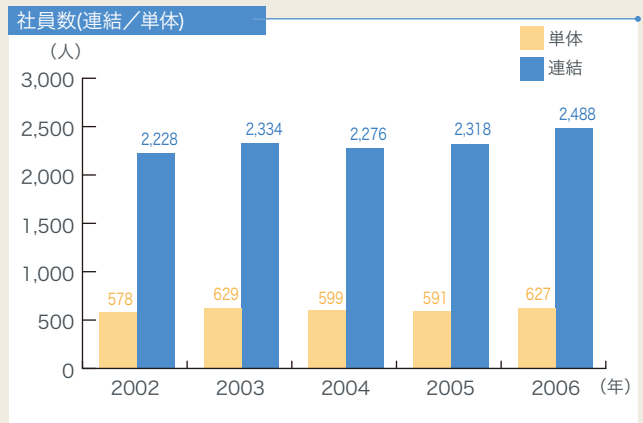
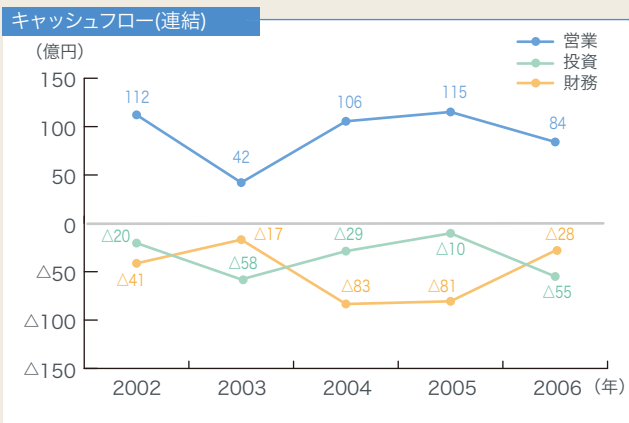
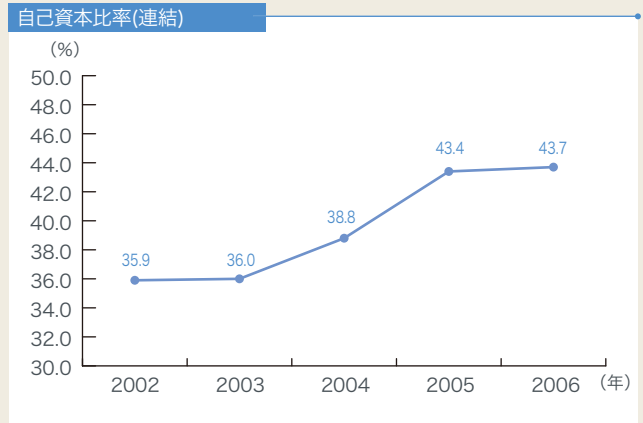
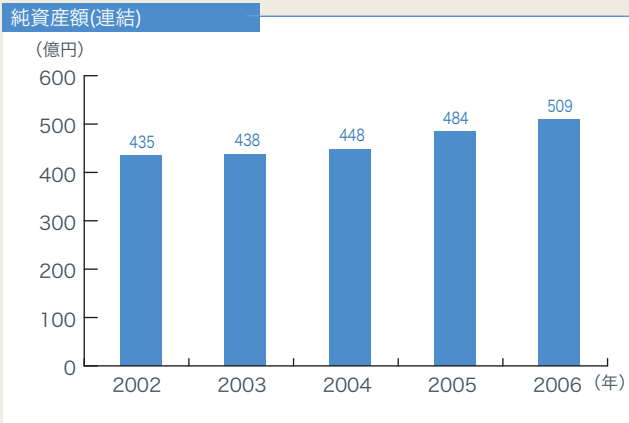
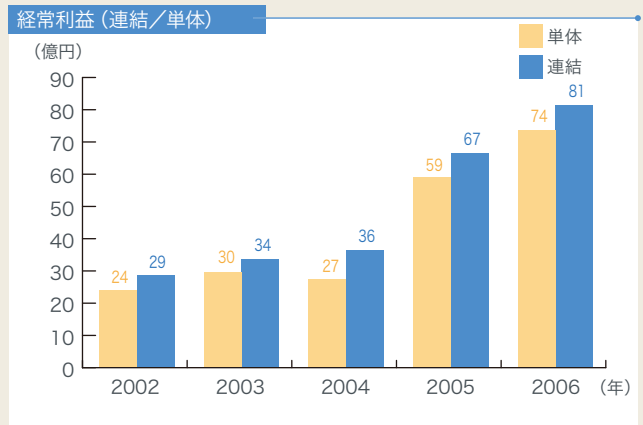
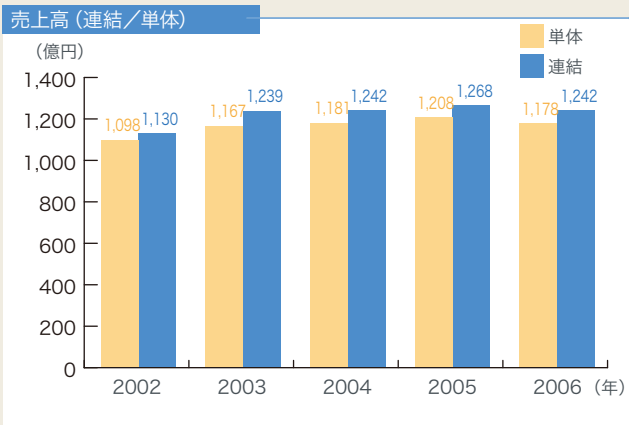
ネットワーク

- 営業拠点 大阪支店・札幌営業所・仙台営業所・名古屋営業所
静岡営業所・新潟営業所・北陸営業所・広島営業所
高松営業所・福岡営業所
- 工場 北海道工場 (北海道石狩市)
東北工場 (宮城県黒川郡)
山形工場 (山形県寒河江市)
関東工場 (茨城県結城郡)
関東下館工場 (茨城県筑西市)
中部工場 (岐阜県安八郡)
近畿亀岡工場 (京都府亀岡市)
福山工場 (広島県福山市)
笠岡工場 (岡山県笠岡市)
神辺工場 (広島県福山市)
九州工場 (佐賀県神埼郡)
四国工場 (高知県南国市)
- リサイクル工場 北海道リサイクル工場(北海道石狩市)
東北リサイクル工場(宮城県黒川郡)
関東リサイクル工場(茨城県結城郡)
中部リサイクル工場(岐阜県安八郡)
福山リサイクル工場(広島県福山市)
九州リサイクル工場(佐賀県神埼郡)
- 配送センター 北海道配送センター(北海道石狩市)
東北配送センター(山形県寒河江市)
東日本ハブセンター(茨城県結城郡)
東京配送センター(千葉県船橋市)
中部配送センター(岐阜県安八郡)
関西配送センター(兵庫県西宮市)
福山配送センター(広島県福山市)
九州配送センター(佐賀県神埼郡)



主要な経営指標

私たちエフピコは、企業価値の向上を目指し、
効率的かつ継続的な成長を達成するための経営を推進しています。



コーポレートガバナンス

企業は株主だけでなく、社会を含めたすべてのステークホルダーのもの。私たちエフピコはそう考えます。私たちを取り巻くさまざまな立場の方から信頼していただける企業となるために、内部体制の整備を進めています。

エフピコのコーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスとは、一般的に「経営者が株主のために企業経営を行っているか」をチェック／コントロールするための仕組みを指し、監査等を通じた経営状態のモニタリングはもちろん、役員選任や情報開示のルールづくり、経営者の業績評価の仕組み、役員報酬の検討なども、その手段として含まれます。

私たちエフピコではコーポレートガバナンスについて、業務遂行の過程をモニタリングすることを通じて、株主だけでなく、社会を含めた幅広いステークホルダーに対して、十分に配慮する必要があるという意識を高めていくための手段であると捉えています。

エフピコでは、コーポレートガバナンスの機能を最大限に発揮できるように、コーポレートガバナンス体制を構築し、健全で、より効率的な経営の実現に向けて取り組んでいます。また、それらを客観的に証明し、顧客、債権者、取引先といったさまざまなステークホルダーと良好な関係を永続的に築いていくために、積極的な企業情報の開示を行っています。

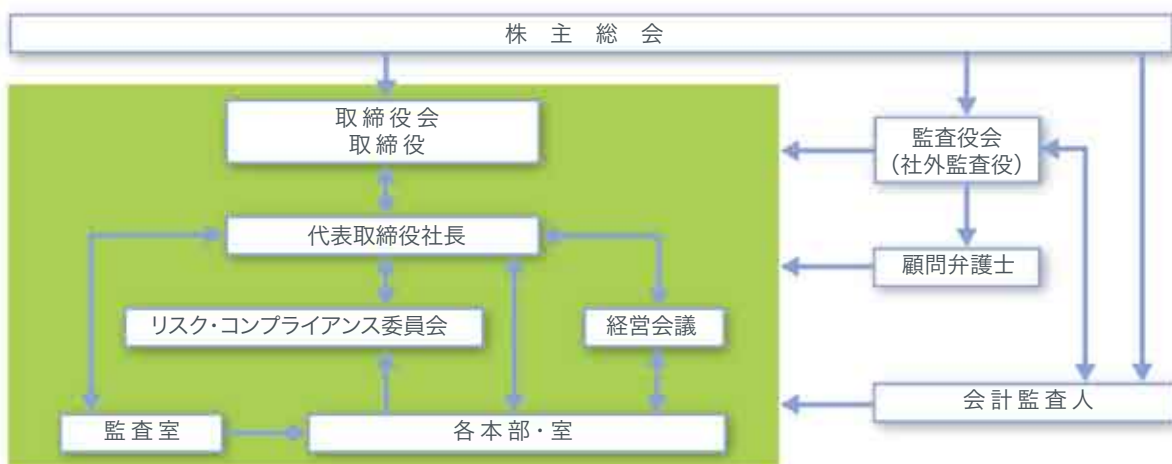
取締役会・監査役会について

私たちエフピコは「監査役会制度」を採用しており、法令に基づき取締役会及び監査役会を設置しています。

取締役会については、経営の透明性を確保するため、毎月、定例取締役会を開催しているほか、必要に応じて臨時の取締役会を開催することで、意志決定の迅速化を図っています。また、上記の会議のほかに経営会議等を開催することで、経営上の課題について、さまざまな角度から十分に議論できる体制としています。

監査役会については、常勤監査役4名で構成されていますが、そのうち2名は、監査の公平性を高めるため社外監査役としています。監査役は取締役会や、その他の重要会議に出席し、経営についてのモニタリングに携わっています。

コーポレートガバナンス体制図



内部統制システムの整備

「食」に携わる企業として、あるいはお客さまに笑顔をお届けする企業として、

法令やモラルを順守し、各種のリスクに備えることは大切なことです。

私たちエフピコは、企業活動を自ら管理する体制を整え、厳しく律してまいります。

内部統制システム

エフピコでは、内部統制システム構築につき、以下の基本方針を2006年5月8日に取締役会で決議しました。

内部統制システムに関する基本的な考え方（概要）

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制と損失の危険の管理に関する規程その他の体制は、以下の通りとする。
 - (1) コンプライアンス、リスク管理に関する体制
 - ①コンプライアンス、リスク管理に関する体制
コンプライアンス、リスク管理に関する体制は、既に設置されているリスク・コンプライアンス委員会をもってこれにあたる。また、公益通報者保護法の施行を受け、法令違反行為等が発生した場合の対応として、内部通報制度を整備し、役員及び社員に対してその周知を図るものとする。
 - ②コンプライアンス、リスク管理に関する規程
役員及び社員が、高い倫理観と社会的良識を持ち、コンプライアンス精神の浸透を図る目的に制定した「エフピコ行動憲章」、「エフピココンプライアンス行動規範」を会社法の精神に則り、再度役員及び社員に対して周知を図るものとする。
 - (2) モニタリング体制
業務執行部門とは独立した社長直轄の監査室による内部監査を実施し、業務執行部門のリスク管理状況、コンプライアンス状況も含めモニタリングを行う。
 - (3) 情報開示統制
法定開示及び適時開示に係る情報は、社長室に情報集約し、関係部門と協議の上、開示の必要性要否の判断を行う。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制は、以下の通りとする。
取締役の職務に係る情報の保存・管理は、「文書管理規程」で定め、適正な運用を図るものとする。
3. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制は、以下の通りとする。
会社法の規定に基づき、取締役会、監査役及び監査役会、会計監査人を置く。また、経営に関する重要事項を協議する機関として、経営会議を設定する。
4. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制は、以下の通りとする。
 - (1) 企業集団のガバナンス体制
 - ①企業倫理、コンプライアンス
当企業集団共通の高い倫理観と社会的良識を持ち、コンプライアンス精神の浸透を図るため、「エフピコ行動憲章」、「エフピココンプライアンス行動規範」を当企業集団に属する役員及び社員に適用するように整備する。
 - ②コンプライアンス、リスク管理に関する体制
当企業集団におけるコンプライアンス、リスク管理に関する体制は、リスク・コンプライアンス委員会をもってこれにあたる。

リスク管理体制の整備

2004年より、エフピコでは「リスク管理体制」を構築し、グループ全体のリスク管理・コンプライアンス活動を行うことを目的とする「リスク・コンプライアンス委員会」を設置いたしました。

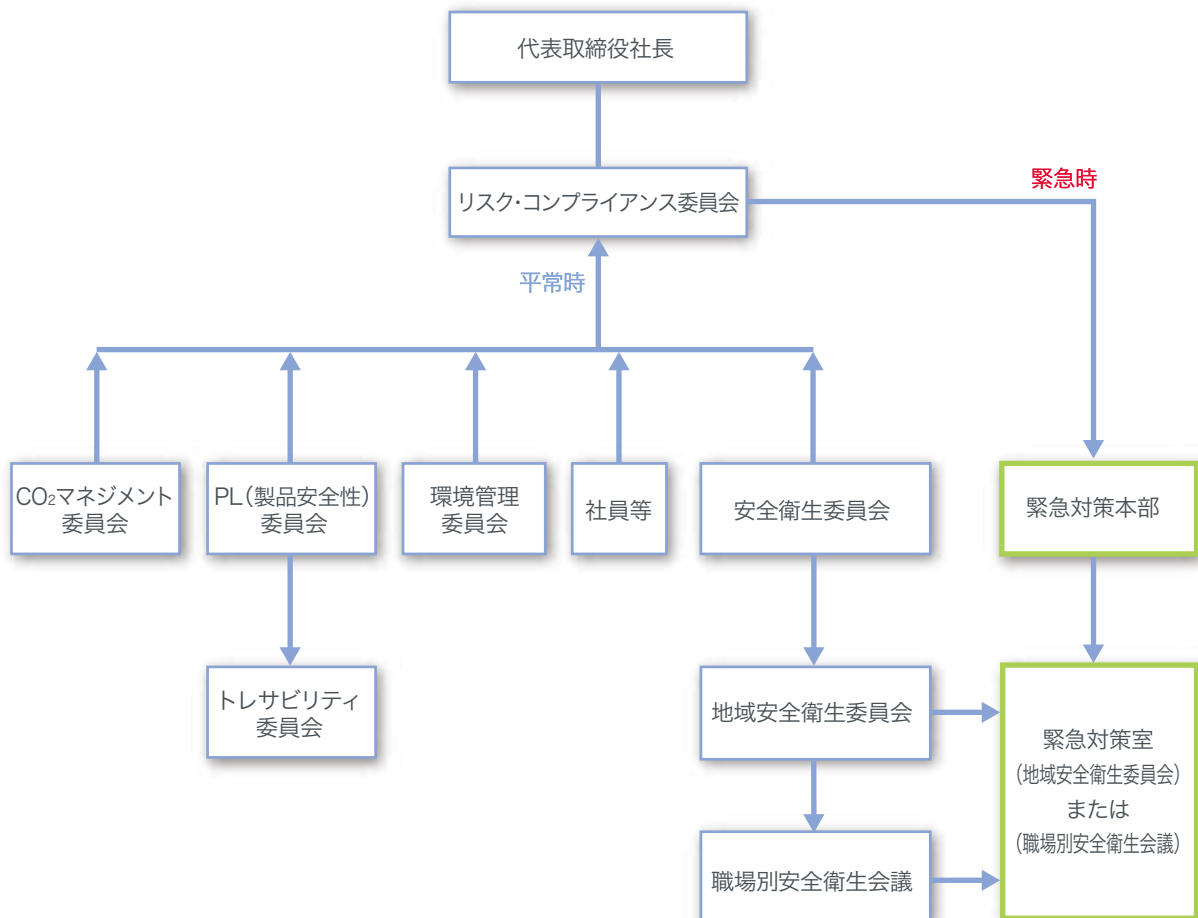
この委員会は社長直轄で、下部組織である「安全衛生委員会」「地域安全衛生委員会」「職場別安全衛生会議」などと緊密に連携を取り合いながら、「リスク・コンプライアンス委員会規則」「リスク管理規程」「危機管理規程」の周知を図るものです。

平常時には、社内の各委員会と連絡を取りながら、リスク発生

の可能性を検討し、対処法を策定するほか、関連すると思われる法令等が施行された場合には、勉強会の主催や、社内規程案の検討等を行います。

また、緊急時にはリスク・コンプライアンス委員会の中に「緊急対策本部」を置き、情報収集や対応の協議などを実施。事態の収束に向け、迅速かつ適切な対応をとるために、グループ全体の舵取りを担当します。

リスク管理体制図



エフピコ行動憲章・コンプライアンス行動規範について

コンプライアンス意識のさらなる浸透を図るために、私たちエフピコでは、2004年に「エフピコ行動憲章」および「エフピココンプライアンス行動規範」を、それぞれ制定しました。役員および従業員

に対して周知を図り、言動を厳しく律することで、会社法の精神に則ったコンプライアンスの徹底を目指しています。

エフピコ行動憲章

株式会社エフピコの役員並びに社員は、当社の経営理念に基づき、法令、協定及び社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正、透明、自由な競争を行う。
5. 株主や当社製品の利用者と広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 社員の人権と個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. 役員は、本憲章の精神と自己の役割を理解し、率先垂範のうえ、社員、グループ企業並びに取引先へ周知するとともに、社内体制の整備と見直しを積極的に行う。
12. 本憲章に反するような事態が発生したときは、会社の責任において、役員・社員一体となり問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。また、関係者の権限と責任を明確にしたうえ、厳正な処分を行う。

第45期リスク・コンプライアンス委員会の活動

2006年度、リスク・コンプライアンス委員会では「環境経営5ヵ年計画」の初年度として、CO₂排出量削減をはじめとする環境負荷低減のための取り組みを進めてまいりました。

「地域安全衛生委員会」および「職場別安全衛生会議」とは、毎月協議の場を設けており、突発的なリスク発生に備えて、より一層の関係強化を図っています。

また、公益通報者保護法の施行を受け、内部通報制度の整備を図るとともに、社内においても同法の勉強会を開催しています。

第45期の取り組み

- 「行動羅針盤」を制定し、役員及び従業員に注意喚起を行いました。
- 業務執行部門ごとのリスク・コンプライアンス情報の収集・評価を実施しました。
- 「エフピココンプライアンス行動規範」に規定されている「内部通報制度」の周知徹底を図りました。
- エフピコグループのガバナンス体制強化の為、グループに属する役員及び従業員に周知徹底させる活動を実施しました。
- 「安全衛生委員会」及びその下部組織と突発的なリスク発生に備え、より一層の関係強化を図っています。

環境方針

私たちエフピコは、自らの事業活動による環境負荷を低減することでこの美しい自然を次の世代へと引き継いでいくことができるよう、環境方針にもとづき、目的、目標を定め、全社を挙げてその順守につとめています。

環境方針

基本理念

当社は地球環境の保全が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし、事業活動を推進する。

方針

- 1 CO₂削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化につとめると共に、一般家庭から排出される使用済み容器を再生利用する『エフピコ方式』のリサイクル事業を積極的に推進する。
- 2 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、及び当社で同意するその他の要求事項を順守すると共に、著しい環境側面に対し自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 3 環境側面を考慮して環境目的及び環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査及び最高経営層による見直しを実施し、継続的改善を行う。
- 4 この方針は、環境マネジメントシステムを確立し、実行し、維持する。
- 5 この方針は、文書化し、全従業員及びエフピコ敷地内契約者にも周知徹底する。
- 6 この方針は、パンフレット、インターネットを通じ一般の人にも開示する。

私たちエフピコは、現在の自然環境をより美しい状態で次の世代へと引き渡すことを目指し、1998年8月に環境方針を定め、その後毎年見直しを重ね、その実行を社内外に発表しています。

環境問題がクローズアップされる毎に、資源浪費の筆頭にあげられがちな食品容器ですが、食品容器がなければ現在の豊かな食

品の流通が成り立たないのもまた事実です。「エコトレー」および、エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」を推進し、より多くのトレーを再生利用できる体制を整えるとともに、さらなる省エネルギー・省資源・環境負荷低減の実現を目指し、これからも研究開発を続けてまいります。

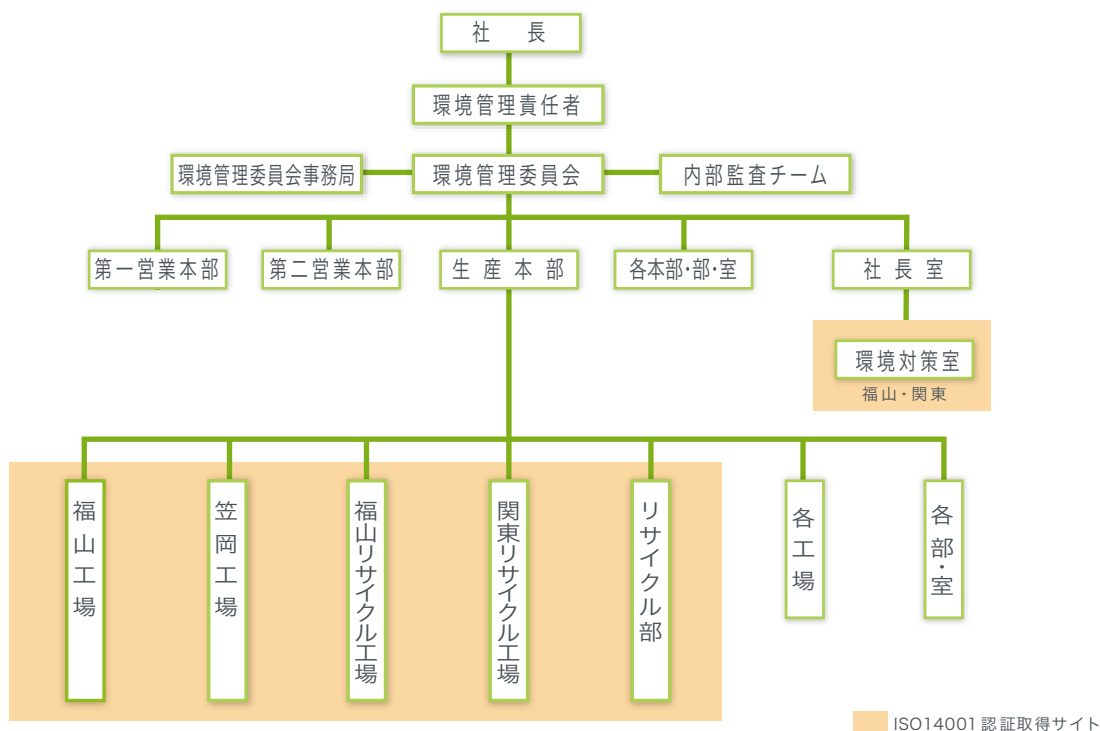
環境マネジメント体制

環境負荷低減の取り組みをより効果的・効率的に、また適切に行うために。

私たちエフピコでは、社長を最高責任者とした環境マネジメント体制を組織し、

システム運用を確実にするため、全社を挙げた環境負荷低減と保全対策に取り組んでいます。

環境マネジメント体制



私たちエフピコは、環境負荷低減への取り組みに全社を挙げて取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に行うとともに、継続的なものとして社内に根付かせていくために、社内の取

組みをリードする「環境管理委員会」を組織。環境マネジメントシステムの継続的改善に向けて、全社的な活動を続けています。

Voice 現場の声

ISO14001規格認証取得までの、長い道のり。

エフピコのISO14001規格認証取得への取り組みは、1997年6月の規格認証取得準備委員会の発足から1999年4月の認証取得まで、約2年の道のりでした。当時はJISの規格化から間がなく、多くの企業ではコンサルタントにパイロットを依頼していました。しかし当社はそれを選ばず、関係部署が集まっての寄り合い所帯でシステムを構築しました。その業務は本来業務の合間にこなすことを余儀なくされ、なおかつ試行錯誤の連続でした。

そして今では、当時の若手が工場のエンジンに成長しています。ISO14001の運用を通じて工場経営を学び、内部監査を覚え、認証未取得の工場と比較しても明らかに成長しています。これからも、関係部署と協力しながら、継続的な改善に努めていきたいと思っています。



環境管理委員会 事務局
西江 昌展

環境経営5ヵ年計画の進捗状況

私たちエフピコの活動が自然環境に与える影響は、残念ながら良いものばかりではありません。
 私たちは、自らの活動が自然環境に負荷を与えていることを正しく認識するとともに、
 自ら目標を定め、環境負荷低減のための取り組みを立案・実行しています。

テーマ		取り組み方法		目標(達成年2010年度)
1. 地球温暖化防止	①エネルギー及び資源の削減 (INPUT)	温暖効果ガス 排出量削減	製造部門	エネルギー原単位 30%削減 (原単位:Wh/枚) ※1
			運輸部門	燃料消費量原単位 30%削減 (原単位:L/1000枚) ※2
			オフィス部門	電気使用量 20%削減 ※3
		京都メカニズムへの取り組み		京都メカニズム活用方法検討(CDM、J.I.国内排出権取引)
		新エネルギーへの取り組み		新エネルギー導入検討
		製品の省資源化		資源使用量原単位 15%削減 (原単位:投入資源重量/枚(ウツド製品除く)) ※4
		エフピコ方式の拡大		回収量:25%増、エコトレ販重量:15%増 ※5
	②廃棄物・環境汚染物質削減 (OUTPUT)	環境汚染物質類	大気汚染管理(SOx、NOx)	焼却炉/SOx総排出量: 50%削減 、NOx総排出量: 50%削減 発電機/1基当たりのSOx排出量、NOx排出量は導入時の排出測定値を維持
			水質汚染管理(COD、BOD)	リサイクル5工場のCOD、BODの 現状排出レベル(法規制値以下)の維持
			化学物質管理(PRTR、VOC)	PRTR:対象物質(DXNs)の 30%削減 VOC:法規制には該当しないが自主規制で 30%削減
		廃棄物類	廃棄物類 オフィスの 3R推進	紙使用量 40%削減 ※6
				事業系廃棄物 10%削減
				リサイクル率 80%以上へ ※7
			工場の3R推進	ゼロエミッション:産業廃棄物総発生量 10%削減
産業廃棄物の削減・管理	最終処分量(単純焼却、埋立て)/総発生量= 5%以下			
2. 製品の環境負荷低減の研究開発	新技術開発		軽量化・薄肉化実現に向けた生産技術の研究・開発	
	環境負荷の少ない製品設計		軽量化、単一素材化、非発泡→発泡体への変更の研究・開発	
	新素材開発		バイオマスプラスチック(PLA等)の研究開発等	
3. グリーン購入	グリーン購入指針作成		グリーン購入率 60%	
	低公害車		低燃費車 100台導入 /ガソリン燃費効率アップ ※8	
4. 環境に対する社員の意識向上	環境マネジメント		ISO14001のEMS手法に沿った活動	
	環境教育		環境教育:2回/年	
	社会貢献		継続実施	
	社内広報活動		継続実施	
5. 環境・社会活動情報のステークホルダーとの共有化	コミュニケーションの強化		ステークホルダー別環境情報の発信と共有化	

2010年度目標数値変更 ※1 エネルギー原単位 10% → 30%削減 ※2 燃料消費量原単位 7% → 30%削減 ※3 電気使用量 10% → 20%削減
 ※4 資源使用量原単位 12% → 15%削減 ※5 販売額 → 販売量 ※6 紙使用量 20% → 40%削減
 ※7 リサイクル率 20%増 → 80%以上へ ※8 ハイブリッド車 → 低燃費車

2006年度の進捗状況および成果について

5カ年計画初年度である2006年度は、まず環境整備とデータの正確な把握を行い、「原単位によるCO₂排出量削減」「ゼロエミッション」「グリーン購入」「エフピコ方式の拡大」の重点4テーマを中心に取り組みました。

初年度ということで手探りの中での活動ではありましたが、概ね良い結果が出せたと思っています。引き続き継続的な改善活動を実施します。

2007年度の目標と取り組みについて

2006年度の活動を踏まえて、2010年度目標及び基準年の変更を行いました。

2007年度も従業員による取り組みを継続するとともに、効率を上げるための積極的な省エネ機器導入も視野に入れております。

基準年度	2006年度目標	2006年度成果	評価	2007年度目標(基準年度比)	関連項目
2003	8.4%削減(2003年度比)	23%削減	◎	25%削減	P29
2004	3%削減(2004年度比)	23.4%削減	◎	25.5%削減	P31
2004	2%削減(2004年度比)	15.7%削減	◎	17%削減	P33
	左記同様	継続中	○	継続検討	—
	左記同様	継続中	○	継続検討	—
2003	11%削減(2003年度比)	16%削減	◎	12%削減	P27
2004	5%増(2004年度比)、販売量165億	12.8%増 152.5億円	×	回収量:13%増、エコレー販売重量:2%増	P35
2005 ※9	10%削減(2004年度比)	SOx23%削減 NOx15%増	×	SOx20%削減 NOx10%増	P25
設置年	左記同様	発電機休止	—	発電機休止に伴い目標削除	—
	左記同様	法レベル維持	◎	法レベル維持継続	P25
2005 ※10	6%削減(2004年度比)	18%削減	◎	23%削減	P25
2000	7%削減(2000年度比)	3.4%削減	×	5%削減	P25
2004	削減5%(2004年度比)	35%削減	◎	37%削減	P33
2006 ※11	1.5%削減(2005年度比)	12.7%増	×	3%削減	P33
	3%増(2004年度比)	23%	◎	50%	P33
2004	2%削減(2004年度比)	18%増	×	9%アップまで削減	P30
2004	20%以下(2004年度比)	11%	◎	10%以下	P30
	左記同様	272アイテム薄肉化実施	○	継続実施	P27
	左記同様	250アイテム軽量化実施	○	継続実施	P27
	左記同様	継続中	○	継続実施	P28
	購入率30%	46%	◎	50%以上	P33
	20台導入(合計23台)	32台導入(期末42台)	◎	5台導入(期末47台)	P34
	エコアクション21の実施	継続中	○	継続実施	P22
	左記同様	継続中	○	継続実施	P40
	左記同様	継続中	○	継続実施	P42
	環境意識共有化の推進	継続中	○	継続実施	P33・40
	左記同様	継続中	○	継続実施	P37・39・44

基準年度変更

※9 2004 → 2005

※10 2004 → 2005

※11 2004 → 2006

「評価」欄 凡例

◎ = 目標を上回る成果

○ = ほぼ目標通り達成(達成率90~110%)

× = 目標未達

物質の流れ

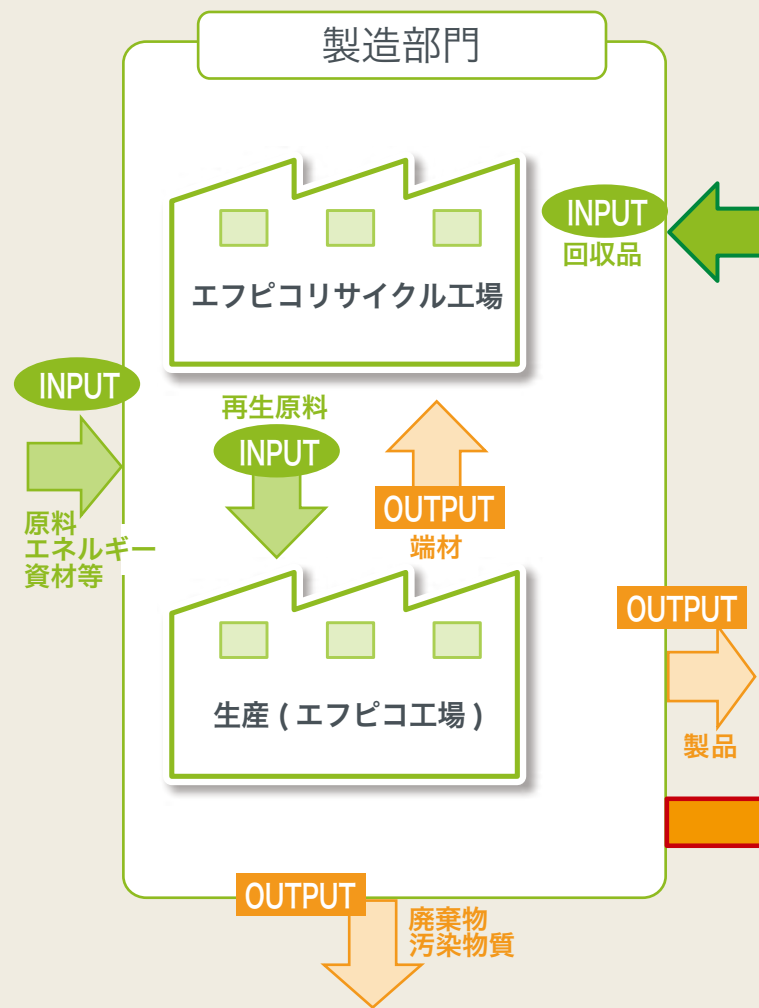
企業活動に伴い、さまざまな物質の移動や、環境への影響が発生します。
 私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、
 自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに務めています。

INPUT OUTPUT 各データ (2006年度)

●表中の数値は年間積算値です。

		製造部門	物流部門	オフィス部門	合計		
INPUT	エネルギー	購入電力 (kWh)	164,272,580	10,004,499	2,175,869	176,452,948	
		化石エネルギー (MJ)	24,957,620	9,809,885	—	34,767,505	
	水資源	上水 (m ³)	163,644	17,752	—	181,396	
		地下水 (m ³)	65,152	0	—	65,152	
		工業用水 (m ³)	357,011	0	—	357,011	
		合計 (m ³)	585,807	17,752	—	603,559	
	原料	樹脂類他 (t)	111,399	—	—	111,399	
		副資材	段ボール (t)	16,018	3,039	2	19,059
			包装ポリ (t)	1,714	—	—	1,714
	合計 (t)	17,732	3,039	2	20,773		
その他	潤滑油 (L)	16,389	—	—	16,389		
	シンナー (L)	5,869	—	—	5,869		
	コピー用紙等 (千枚)	2,645	8,237	8,146	19,028		
OUTPUT	製品	製品生産重量 (t) (内、エトレー生産重量 (t))	116,041 (13,310)	—	—	116,041 (13,310)	
		出荷トラック台数 (台)	117,591	—	—	117,591	
	廃棄物	再資源化 (t)	5,603	148	14	5,765	
		最終処分 (t)	693	71	45	809	
		合計	6,296	219	59	6,574	
		再資源化率 (%)	89	68	23	88	
	環境汚染物質	煤塵 (kg)	4,933	—	—	4,933	
		NOx(kg)	593,886	—	—	593,886	
		DXN類 (mg-TEQ)	49,253	—	—	49,253	
		BOD(kg)	378	—	—	378	
COD(kg)		325	—	—	325		
SS(kg)		541	—	—	541		

営業所の廃棄物については、7月～3月までの数字合計です。



エフピコの物流循環システム

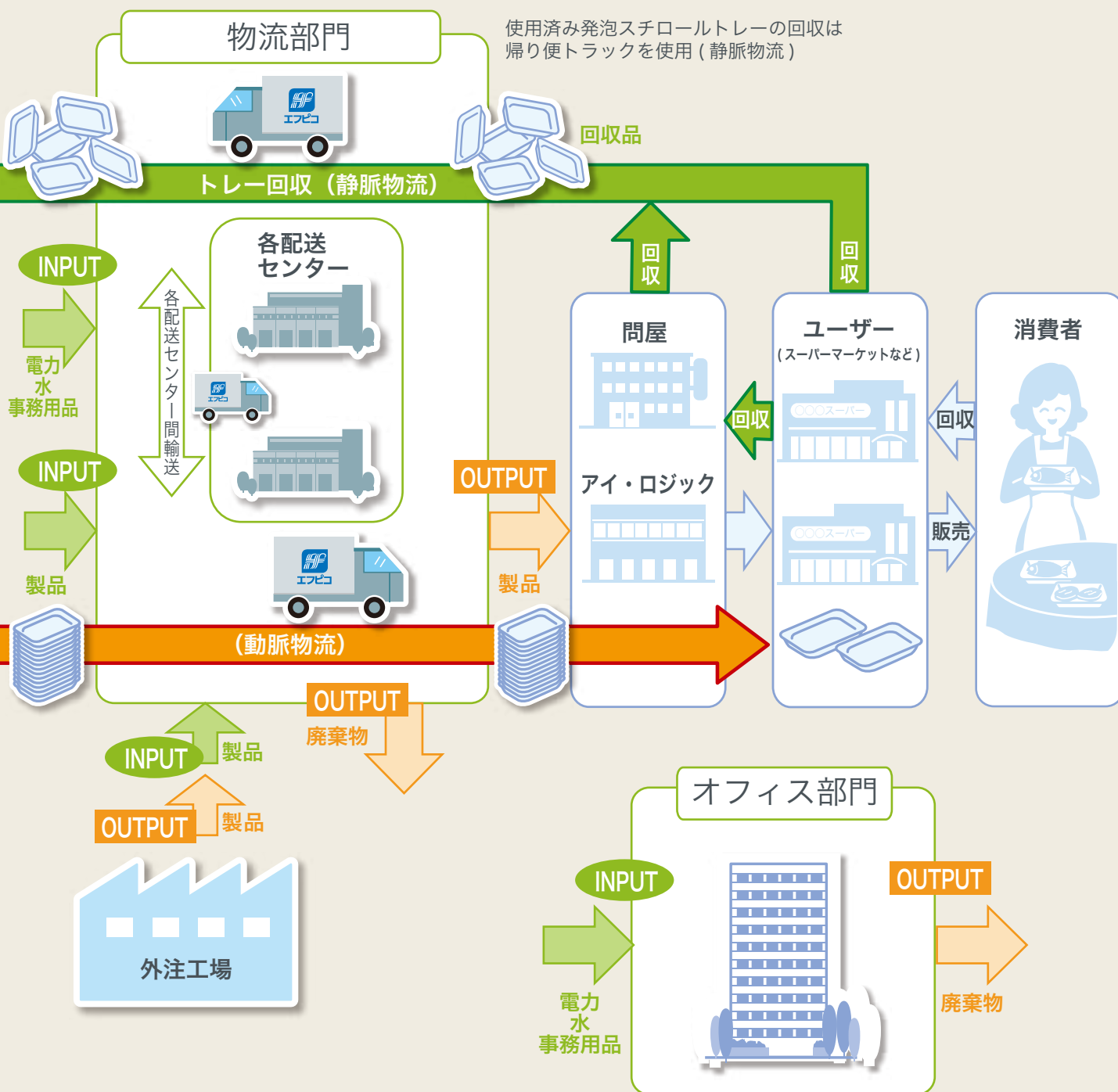
動脈物流

静脈物流

製品を迅速にお届けするために整備した物流ネットワークで、効率的に配送を行います。

製品を配送した帰りの便が、使用済み容器を回収しリサイクル工場へ運びます。

物質フロー図



製品開発における配慮



使いやすさはそのままに、環境保全に配慮した製品をお届けするために。私たちエフピコは「環境経営5ヵ年計画」に従い、環境負荷低減のための研究開発に取り組んでいます。

資源の使用量の削減（リデュース）に取り組んでいます。

環境保全のキーワードとして「3R（リデュース、リユース、リサイクル）」が頻繁に取り上げられていますが、私たちエフピコでは、トレーの「リサイクル」以外にも、容器一枚あたりの資源の使用量を減らすことによる「リデュース（資源使用量の削減）」への取り組みを、環境経営5ヵ年計画に基づき進めています。

素材の発泡による軽量化

容器の素材を、従来使用されてきた非発泡のHIPS（耐衝撃性ポリスチレン）から、発泡素材であるPSP（発泡ポリスチレンペーパー）に変更することで、機能や見栄えはそのままに、重量を約1/3に減らした製品のラインナップを増やしています。

現在、250アイテムで、軽量化を完了しており、さらにアイテムを増やしていく予定です。



発泡していない素材（HIPS）を使った製品と、発泡素材を使った製品を比べると、同じように見えても重量は大きく変わります。

従来より薄い素材を使用した軽量化

エフピコでは、主に透明容器の軽量化を図るため、製品の薄肉化を進めています。

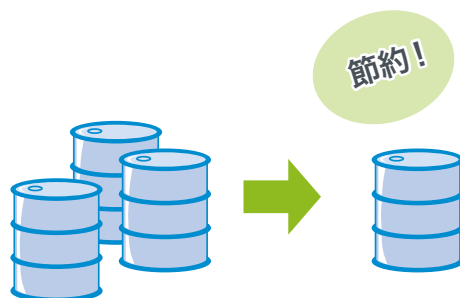
これは容器成形に使用している樹脂シートを従来のもよりも薄くすることで、製品重量を減らす試みです。薄肉化による強度低下を防ぐため、「リブ」と呼ばれる設計上の工夫を施しています。



容器の各所に「リブ」と呼ばれる加工を施すことで、薄肉化によって発生する強度低下を防いでいます。

容器軽量化・薄肉化のメリット

- 使っている原料の量が少ない。
 - ▶ 資源を節約できる。
 - ▶ 使用後の廃棄物の量を減らせる。



Voice 現場の声

暮らしの変化を見つめながら、新製品開発を行っています。

製品開発には、消費者の生活様式の変化を予想しながら対応する研究を進める、といった先読みの部分もあります。環境意識を含めた消費者の価値観がどう変化していくかについては、常に気にしています。



生産本部 製品開発部
廣末 康弘

ロースタック化により保管・物流の効率を向上させました。

トレーの運搬や保管等の利便性を高めるために、トレーを積み重ねた際のスタック（積み重ねた高さ）を低く抑える「ロースタック化」に取り組んでいます。

これは、強度や見栄えといった機能面での要件を損なわずに、トレーのふちの角度や樹脂シートの薄肉化といった設計上の工夫によって、スタックを可能な限り低く抑えようとする試みです。現在販売している「FLS」シリーズの場合、従来品であれば100枚積み重ねた時のスタックが800～900mmのところを、約40%減の450～550mmに抑えることに成功しています。（当社比）

ロースタック化によりトレー保管時の容積を減らすことができ、倉庫等をより効率的に使うことができます。また、トラック1台あたりの積載枚数が増えることから、輸送効率の向上、輸送コストの削減、ひいてはCO₂排出量の削減にもつながります。

スタック高さの比較



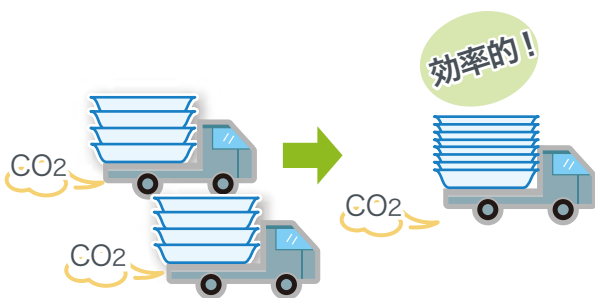
トラック積載数比較

	従来品	「FLS」シリーズ	積載数差
ケース入数 (枚)	1,200	1,800	+600
積載ケース (ケース)	108	144	+36
積載枚数 (枚)	129,600	259,200	+129,600
積載重量 (kg)	983	1,714	+731

※トラック荷台サイズ 荷室縦 8,200mm 荷室横 2,300mm 荷室高 2,600mm

ロースタック化のメリット

- たくさん重ねてもコンパクト。
 - ▶ 輸送回数の減少による、CO₂排出量の削減。
 - ▶ 倉庫内スペースの合理化・効率化



公的な認定を受けています。

エコマークの認定を受けています。

環境省の外郭団体である(財)日本環境協会が、環境保全に役立つと認められる製品を認定する「エコマーク」。エフピコの「エコトレー」は、1991年、食品容器として初めてエコマーク製品として認定されました。



各県でエコ製品に認定されています。

エフピコの「エコトレー」は、2003年3月20日に岡山県でエコ製品に認定されたのを皮切りに、佐賀県、岐阜県、宮城県、広島県などでエコ製品に認定・登録されています。



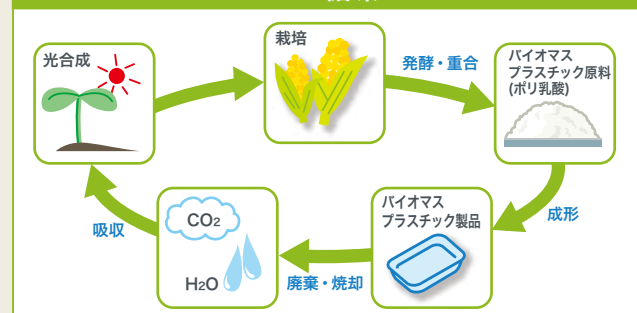
バイオマス・プラスチック素材を利用した容器の開発を進めています。

環境経営5ヵ年計画の中には、製品の環境負荷を抑える方策として、「新素材開発」も取り組み項目に挙げています。エフピコでは、近い将来の製品化を目指し、植物から作られる「バイオマス・プラスチック」の研究を続けています。

バイオマス・プラスチックとは、トウモロコシ等の植物を原料に作られるプラスチックです。植物は生育途中でCO₂を吸収するため、環境負荷を低減させる可能性を持っています。

バイオマス・プラスチック製の容器は、まだ耐熱性や耐久性、コスト面での現実性の他、原料の安定調達など克服すべき課題は多数残っていますが、将来の製品化を目指し、現在も地道な研究を続けています。

CO₂循環



工場における配慮

安全で確かな品質の製品を、環境への影響を抑えて生産するために。私たちエフピコは、地道な取り組みを重ねながら、より環境負荷の低い生産方法について、常に考えています。



生産効率の向上を図り、環境負荷を低減しています。

工場の無駄をなくし、効率的な操業を追求することは、容器1枚あたりの使用電力量を減らし、結果として省エネルギーにつながります。エフピコの各工場では、生産効率向上および省エネルギー、環境負荷低減のための、さまざまな取り組みを進めています。

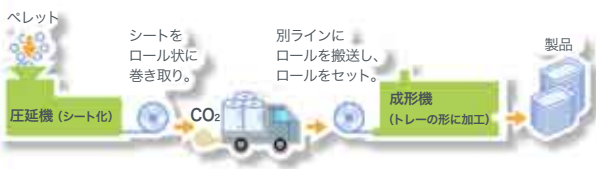
一貫生産ラインの増設を進めています。

成形成品生産工場において、押出装置と成形装置を一つのライン上に配置することで、シートの押出しから成形加工までの連続生産を可能にした「一貫生産ライン」の増設を進めています。

一貫生産ライン化により、これまで工場間でシートを移動していた手間や時間、物流費、エネルギーが削減できるほか、原料シートの在庫を大幅に削減することもできました。

通常の生産ライン

シート化と成形のラインが分断しているため、輸送や成形機へのセットの手間がかかります。作業効率が低下し、電力に無駄が発生します。また、輸送時にはCO₂等が排出されます。



一貫生産ライン

ペレット投入から成形までを一貫して行うため、生産効率が向上し、結果として消費電力の節約になります。



機器の省エネルギー化を進めています。

加熱が必要となる成形機等の機械には、保温効果を高めるために、断熱材を使ったカバーを設置しています。必要な温度を維持しやすい環境を作ることで、省エネルギーと作業効率向上の両立を実現しました。

また、成形機や押出機等、生産ラインの機器については、ベルトコンベヤーにセンサーを設け、材料が流れていないときにはコンベヤーの電源をOFFにするよう設定し、節電を図っています。

省エネルギー効果の高い機器への更新を進めています。

工場で使用している機器は、定期的な更新の際により省エネルギー効果の高いものや、作業効率の向上に繋がるものに入れ替えを進めることで、ラインの省エネルギー化を進めています。

2006年度は、関東下館第2工場において、電力使用量に応じた運転制御ができるインバーターコンプレッサーと制御システムのほか、人感センサーを取付けた照明を採用し節電を図っています。



端材・不適合品も、リサイクルしています。

成形工場で各種の容器を成形・裁断した残りの端材はもちろん、ペレットをシート化する際に、色や厚みが不均一で不適合品とされた物についても、同一工場内で再度ペレット化して利用しています。この端材・不適合品については、ほぼ100%を再利用しています。

作業効率向上のため、作業の簡素化を進めています。

工場内の各作業員の作業効率を高めるため、工場機器のレイアウト等を工夫し、一人で担当する作業の簡素化・マニュアル化を進めています。作業分担を減らすことで、作業の効率や精度を高めることを目的としています。

ISO9001の認証を取得しています。

お客さまや消費者の方々に、安心してご使用いただける製品をお届けするために、私たちエフピコでは、品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」の取得を進めています。現在までに、笠岡工場（2005年12月）、関東下館工場（2006年3月）、近畿亀岡工場（2006年6月）で、同認証を取得しました。

ISO規格に従って業務内容を整理することで、工場内での責任と権限が明確となり、これまで行ってきた業務を標準化することができました。その結果適切な教育・訓練が可能となり、生産技術の向上にも繋がっています。さらに、各部署が「品質方針」に基づき品質目標を掲げることにより、品質に対する意識が高まり、一人ひとりの仕事への取り組み姿勢にも変化が現れています。

今後も、より安全で、安心してご使用いただける製品を提供できるよう、さらなる品質向上に向け継続的改善を実施してまいります。

ゼロエミッション活動

ゼロエミッション活動とは「地球の限りある資源の完全かつ効率的利用と自然環境に人類が与える影響を最小化する」という構想に基づく活動で、国連大学によって1994年に提唱されました。

私たちエフピコは、2006年度から2010年の達成を目指し、活動を開始しました。

品質方針ならびに品質目標の一例(笠岡工場)

■品質方針

より良い製品で高い信頼、
顧客のニーズを満たす製品を提供する。

本方針を維持・継続・実行する為に私達は下記の事項を確立します。

- 1.お客様の要望を的確に捉え、対応できる品質マネジメントシステムを構築し、推進・維持・確立する為の経営資源を投入する。
- 2.本方針の推進の為に、具体的な品質目標を定める。
- 3.食品衛生法等の関連法規を遵守する。
- 4.市場の変容、当工場の改革等に合わせ本方針を定期的に見直し、適切性を持続すると共に、品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を行う。
- 5.本方針を全従業員に理解させる為にあらゆるコミュニケーションの場を通じて周知・徹底を行う。

平成16年9月15日
株式会社エフピコ 笠岡工場
経営者 田井 秀明

株式会社 エフピコ 笠岡工場

■2007年度品質目標

●46期 工場品質目標

- ①クレーム削減（目標45ppb以下）
- ②生産性向上

●46期 部署品質目標

【PSP課】	【PS課】
①クレーム削減(50件・40ppb)	①クレーム発生率45期対比40%削減
②時間当たり 1,100st	PS-2課：17件・65ppb
稼働率 76%	PS-7課：5件・55ppb
製品効率 101%	②時間当たりの生産性アップ(良品st/時間)
	PS-2課：2%アップ・717st/h以上
	PS-7課：2%アップ・816st/h以上

エフピコゼロエミッション定義

- ① 総発生量 10%削減
- ② 最終処分量（単純焼却、埋め立て）／総発生量=5%以下
- ③ 達成した月から3ヵ月間維持している
- ④ 再資源化手法、委託先が明確でありコンプライアンスが原則（トレーサビリティの実施）

Voice 現場の声

開発部門と連携して、高品質の製品づくりに取り組んでいます。

開発部門から提示された生産方法に対して、現場の経験から、開発部門に逆提案することもあります。より良い製品を、より効率良く安定的に作れるよう、開発部門と協力しながら、日々改善を進めています。



生産本部 設備部
貞利 行輝

SCM部門からの指示を参考に生産効率向上を目指しています。

生産する製品の種類をこまめに変更すると、金型交換などでラインを度々停めることになり、無駄が発生します。なるべく同一品種をまとめて生産できるように、SCM部門からの情報を参考に、効率的なライン運用を考えています。



株式会社エフピコ 箕島
鮫島 秀樹

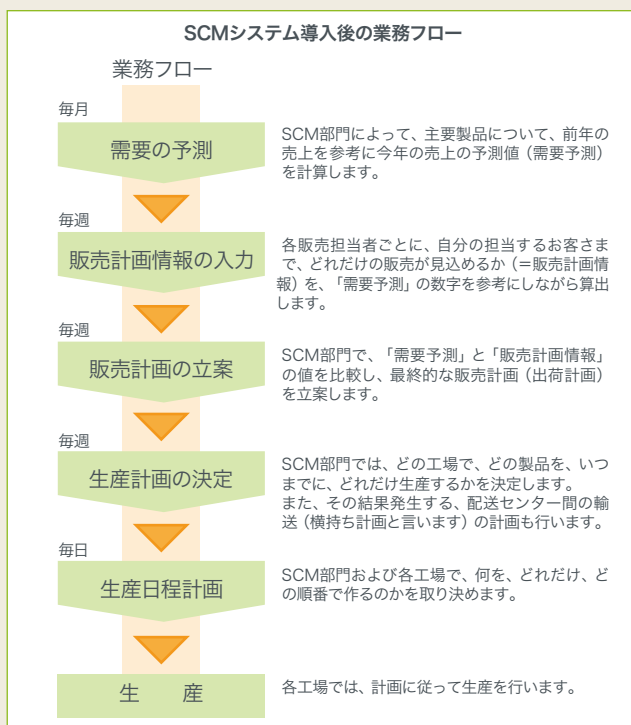
流通・販売における配慮

製品をリアルタイムで管理し、現場のニーズに迅速に応えるために。
 そして、物流の効率を高めながら、環境への負荷を極力抑えるために。
 サプライ・チェーン・マネジメント（以下SCM）をはじめとする
 多種多様なシステムを導入し、消費エネルギーの削減を目指しています。

SCMシステムを導入し、 物流の効率化を図っています。

私たちエフピコでは、生産・物流効率の向上と、お客さまニーズへの対応力強化を目指し、SCM部門が中心となりトータル管理を行っています。これは、通常はコミュニケーションを取る機会の少ない、製造・物流・販売部門をSCM部門が仲立ちするとともに、一連の過程をSCM部門がトータルで管理することで、在庫不足や過剰在庫の発生を防いだり、予想されるお客さまのニーズに十分に答えられるよう生産から物流までの作業計画を行うものです。

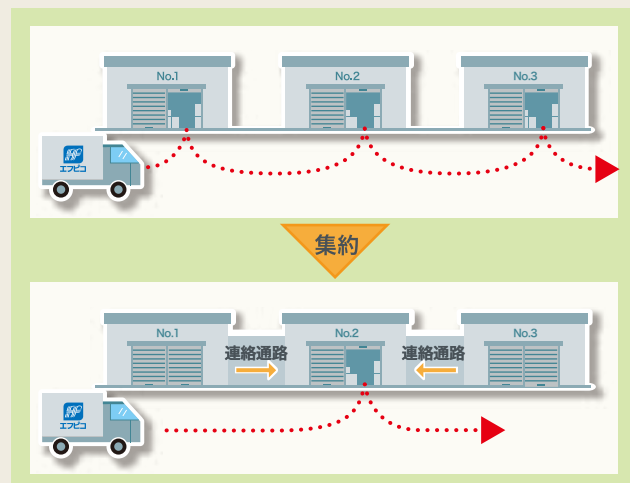
きめ細かい生産管理を実施して無駄をそぎ落とすことで、生産効率が向上すると、容器1枚あたりの必要電力を減らすことができます。また、在庫不足による他の拠点からの輸送などが減ることにより、輸送コストの削減や輸送の際の排出ガスを削減することにもつながります。



連絡通路増設による、積み込み作業の効率化

エフピコの各物流拠点では、倉庫からトラックへの積込作業の効率化を図るため、隣接する倉庫間に連絡通路を増設し、トラックに積載する荷物を、フォークリフト等を使って、あらかじめ一つの倉庫に集めるようにしています。

この対応により、複数の倉庫で積み込みを行うのに比べ積込時間が短縮され、その結果エネルギー（燃料）消費の削減および排出ガスの抑制を実現しました。



配車計画システムを全国で導入しています。

福山・中部・関東の配送センターで稼働している「倉庫管理システム（LIGNS）」および「配車計画システム（NEUPLANET）」を、北海道・東北・九州の3拠点にも2006年度より導入しました。

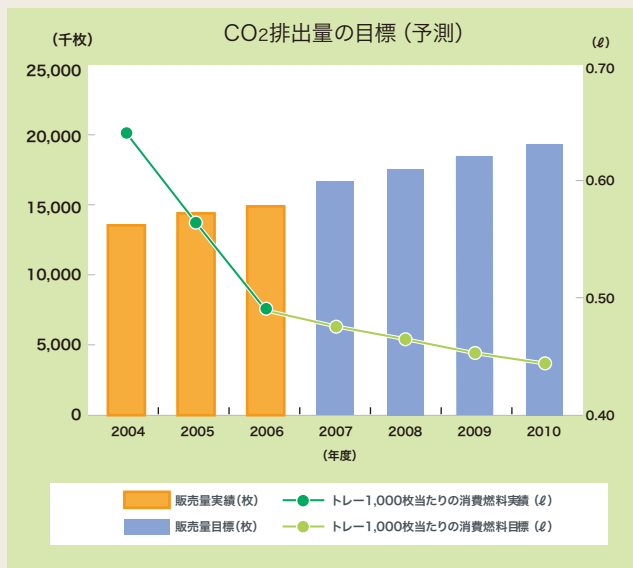
システム導入の目的は、配送効率の向上による総配送車両台数の削減および、総車両運行時間の短縮化です。これらは、燃料消費量の削減および排出ガスの削減へと直結し、エフピコ全体の環境負荷低減に大きく貢献します。今回の導入により、これまで部分的な取り組みであった配車計画の効率化が全国規模で進むこととなり、より一層の環境負荷低減効果が期待できます。

「環境経営5カ年計画」に基づく
CO₂排出量削減を進めています。

私たちエフピコは、物流過程で発生するCO₂を削減することを目的として、「物流部門CO₂削減分科会」を2004年に設置。容器配送枚数1,000枚あたりのCO₂排出量を、7%削減（基準年2004年・達成年2010年）することを目標として、活動を続けてきました。

計画初年度となる2006年度は、販売物流（ルート便、スルーデポ便、路線便）、資材物流、生産拠点間物流など、それぞれの輸送シーンにおいて、エコドライブの徹底や積載効率向上のための取り組みを進めるとともに、各地の需要に見合う現地生産体制を整備することで、拠点間の輸送量を大幅に削減することができました。

その結果2006年度は、計画を大幅に上回る23.4%の削減を実現することができました。今後もさらなるCO₂排出量削減を目指し、積極的な取り組みを続けます。



『エフピコ物流協会』で
グリーン経営認証取得と環境問題研修会を実施しました。

エフピコを支える全国23社の物流企業で組織する『エフピコ物流協会』では、エフピコ物流（株）をはじめとする会員企業の一部が、交通エコロジー・モビリティ財団が認証機関となって推進している『グリーン経営認証』を2006年度に取得し、環境配慮型経営の実践に向けて、取り組みを始めました。

また、『エフピコ物流協会』で年4回開催する研修会では、毎回環境問題をテーマにした勉強会を実施しており、会員企業の環境意識の向上に向け、取り組みを続けています。

エコドライブ10か条 (チャレンジ燃費向上!!)

1. 無用なアイドリングをやめる (アイドリングストップ)
2. 経済走行、低速走行・高速道路
法定速度・一般道路
3. 点検・整備 (タイヤの空気圧を適正に)
4. 無駄な空ぶかし禁止 (大型車1回で10~17cc)
5. 滑らかな発進・加速 (急発進・急加速の禁止)
6. 適切な車間距離をキープ
7. 早めのシフトアップ (低速ギアで引っ張る運転は避ける)
8. 早めにアクセルペダルを外す (惰性走行の活用)
9. エアコンの使用はひかえめに
10. 暖気アイドリング2分以内



認証取得した会社の車両には、ステッカーを貼っています。



ドライバーの詰め所には、各人の燃費をグラフ化して掲示しています。

Voice 現場の声

必要な時に、必要な量の製品を
ご用意できるよう気を配っています。

材料から製品を作るまでには、10日前後の時間が必要です。SCM部門では、お客様のニーズを見越して、あらかじめ材料の手配や製造スケジュールの調整を行い、お客様が必要とする時に必要なだけの製品をお届けできるよう配慮しています。



SCM本部 SCM企画部
松岡 淳司

「適量」を見極めるのが
難しいですね。

毎日千種類以上の在庫をチェックし、欠品のないよう生産指示を出しています。ただ、どの容器がどれくらい売れるかは季節や天気によっても変化しますし、作りすぎても保管が大変なので、「適量」を見極める必要があるのですが…とても難しいですね。



SCM本部 生産企画部
宝諸 敏子

オフィスにおける配慮

全社一丸となって省資源・省エネルギーに取り組むために。
各地のオフィス部門でも、積極的な取り組みを進めています。



オフィス全体で、 省エネ・省資源活動に取り組んでいます。

資源分別ステーションを設置しています。

素材ごとに複数のゴミ箱を用意し、オフィス内での廃棄物の分別を積極的に行っています。特にPETボトルについては、本体、蓋、ラベルの素材分別を徹底しています。また、ゴミ集積所についても「資源分別ステーション」と名前を変え、「分ければ資源、混ぜればゴミ」のスローガンを大きく掲示することで、「ゴミ」から「資源」へと、従業員の意識を変える取り組みを行っています。

また、それぞれのオフィスで働く従業員一人ひとりが、廃棄物の排出量を減らすよう努めています。



各オフィスに環境掲示板を設け、環境関連情報を提供しています。

環境保全のための情報を掲出する掲示板を各オフィスに設け、従業員へ環境関連情報を発信し、環境啓発や環境コミュニケーションに役立っています。



グリーン購入を積極的に進めています。

環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを選んで購入・利用しようという、いわゆる「グリーン購入」を、それぞれのオフィスで実践しています。

クールビズ・ウォームビズを実践しています。

CO₂排出量を6%削減し、地球温暖化を食い止めようという国民的プロジェクト「チームマイナス6%」に、エフピコも参加しています。
その活動の一環として、冷暖房を控えめにすることでエネルギー消費を抑える「クールビズ」「ウォームビズ」にも取り組んでいます。



従業員を対象とした環境セミナーを開催しています。

環境保全活動に対する従業員一人ひとりの理解と自覚を促すため、CO₂マネジメント委員会が中心となり環境セミナーを定期的に開催。地球環境保全の重要性、CO₂マネジメントの仕組みなどについて講義を行っています。



その他、省エネルギーの取り組み

オフィス機器や蛍光灯等の備品を、順次省エネ型の製品に交換しています。また、照明やOA機器の電源をこまめにOFFにするといった小さな省エネに、従業員一人ひとりが気を配っています。

自動販売機を通じた環境保全に協力しています。

NPO法人「ふくやま環境会議」の提唱する「幼稚園・小中学校の校庭芝生化」という趣旨に賛同し、売上金の一部を同NPOに寄附する「『校庭芝生化』支援自動販売機」を本社及び福山リサイクル工場に設置しています。

また東京本社では、売上金の一部が（社）国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄附される自動販売機を設置しています。



東京本社では、寄付の総額を掲示し、協力を呼びかけています

ハイブリッドカーの導入を進めています。

各地の営業・生産拠点で使用している社用車について、CO₂排出量の少ない「ハイブリッドカー」への転換を、2005年度より順次行っています。

ハイブリッドカーのCO₂排出量は、従来のガソリン車の約50%で、今後、順次社用車の転換を進めていくことで、CO₂排出量を大きく削減することが期待できます。

2006年度は32台導入し、現在、社用車310台中、42台の転換が完了しています。また、4つ星低公害車の導入も進め、2006年度は9台導入しています。



エコドライブに向けた呼びかけを行っています。

社用車を運転するすべての従業員に対し、環境負荷を抑える運転方法、いわゆるエコドライブについて、具体的な項目を挙げたミニポスターを社内に掲示すると共に車内にも常備して、注意を喚起しています。



Voice 現場の声

環境セミナーを受講して、身近な取り組みの意味を知りました。

廃棄物分別やクールビズ/ウォームビズなど、社内の環境活動に協力はしていましたが、その意味や自らの責任について、深く考えたことはありませんでした。「環境経営5カ年計画」についても、環境セミナーに参加したことで計画の内容を具体的に理解するとともに「社員全員がこの計画のメンバー」という自覚を持つことができました。

トレーのリサイクルについては、ミニフェアなどで意識する機会も多いのですが、身近なはずの社内活動となると、案外その機会が少ないように思います。今回のようなセミナーがあることで、社員の環境意識も変わっていくのでは、と感じました。



第一営業本部 ストア支援事業部 佐野 千早

取り組みの成果

エフピコ方式のリサイクル「トレーtoトレー」を開始して16年半が経過し、取り組みの成果は廃棄物の削減、資源の有効活用にとどまらず、社会的コスト及びCO₂排出量削減にまで深化しています。

廃棄物の削減

エフピコが2006年度に回収した使用済みトレーは全部で約6,500トン。枚数に換算すると約16億2,500万枚にもなります。これらのトレーを回収・再生したということは、それだけの廃棄物の排出を抑制したことになります。

いま、日本の各地で、廃棄物の最終処分場が不足し、大きな問題となっています。エフピコ方式のリサイクル「トレーtoトレー」は、これらの問題の解決に向けて、大きく貢献するものと自負しております。

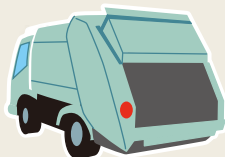
社会的なコスト削減にもつながります。

ゴミを処分するにも、費用がかかります。量が増えれば増えるほど、その額が大きくなっていくのは当然です。トレー・リサイクルによって、廃棄物が減ることは、すなわちゴミ収集に伴う社会的なコストが節約できるということでもあるのです。

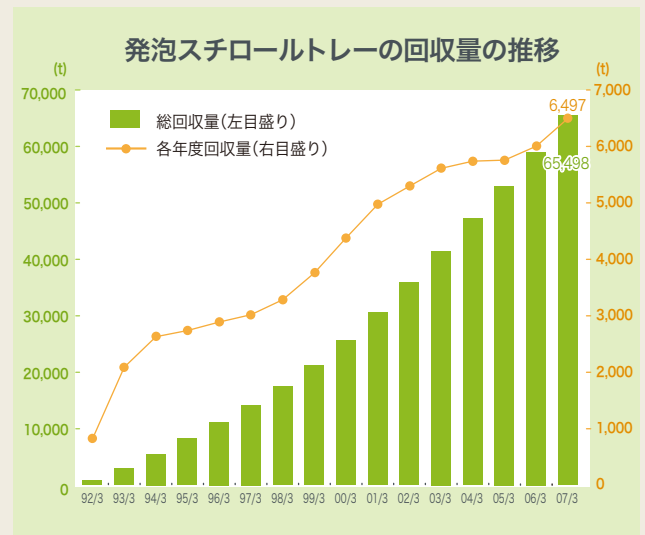
具体的な数字で見てみましょう。

1990年9月にエフピコがトレー・リサイクルを開始してから2007年3月で16年半が経過しました。この間に回収された発泡スチロールトレーは約163億7,500万枚/約6万5,500トンとなります。これは東京ドームなら10.8杯分、ゴミ収集車なら約117万台分にも相当します。自治体にもよりますが、ゴミ収集車1台分の廃棄物を収集、運搬するための費用は、約2万5000円。つまり、エフピコがリサイクルしてきたトレーを、ゴミとして処理しようとする、収集、運搬費用だけでも約290億円もの社会的コストがかかる計算になります。

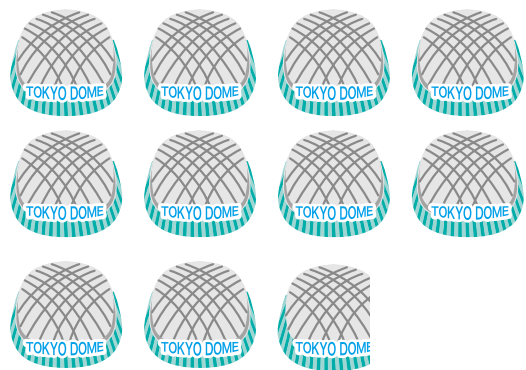
こうして考えると、エフピコのトレー・リサイクルは単に環境のためだけでなく、行政のコスト削減にも効果があることが分かります。



**ゴミ収集車 117万台
約290億円の削減**



容積は東京ドーム約 10.8 杯分に相当します



※東京ドームの容積は124万立方メートル

※標準的なゴミ収集車 (2トンクラス) の容積は、約4.6立方メートル。

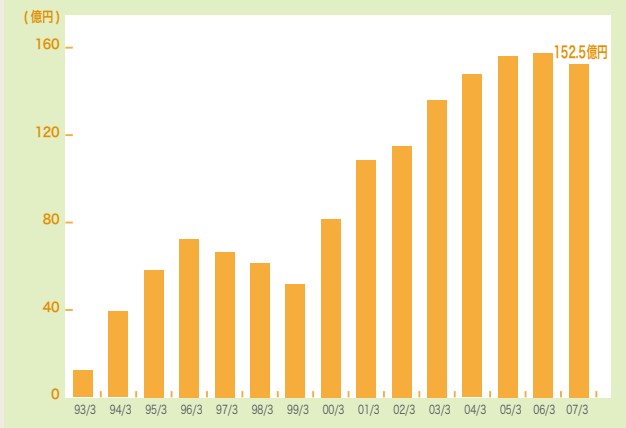
トレーをぎっしり押し込むと1立方メートルに約3,000枚入るため、1台のゴミ収集車に約1万4,000枚入る計算になる。

資源の有効活用

エフピコ方式のリサイクルがはじまってから16年半の間に回収されたトレーを石油に換算すると、約1億5,700万リットル（ドラム缶約79万本分）にも及びます。



エコ製品の売上高の推移



さらなるリサイクル効率の向上に向け体制を整えています。

私たちエフピコが、2006年度に回収した使用済みトレーは、合計約6,500トン。それに対し、全国6拠点に設けたリサイクル工場の処理能力は、年間1万5,000トンです。エフピコのリサイクル能力には、まだまだ余裕があります。

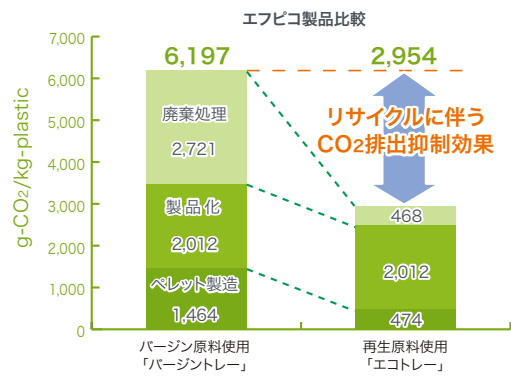
これからも、限りある資源を有効に活用するために、さらなるトレーリサイクルの実績向上・効率アップを目指してまいります。

CO₂の排出抑制

いま地球規模での環境問題で、もっとも深刻と言えるのが「地球温暖化」です。これは、CO₂の濃度が濃くなることで大気の色度が上昇する「温室効果」が原因とされています。

トレーをリサイクルして再利用することは、本来焼却されるはずだった廃棄物を減らし、ひいては廃棄物焼却に伴って排出されるCO₂の量を抑制することにもつながります。

1kg(約250枚)エコトレーを使うことで約3.24kgのCO₂排出抑制効果!



全国リサイクル工場と処理能力

工場名	所在地	担当地区	処理能力(月間)
北海道リサイクル工場	北海道石狩市	北海道	100トン
東北リサイクル工場	宮城県黒川郡	北日本	100トン
関東リサイクル工場	茨城県結城郡	関東	450トン
中部リサイクル工場	岐阜県安八郡	中部	150トン
福山リサイクル工場	広島県福山市	関西・中国・四国	360トン
九州リサイクル工場	佐賀県神埼郡	九州	150トン

※処理能力については、各工場とも24時間稼働の場合。

合計 1,310トン

消費者とのかかわり

食品流通の中で、食品容器を最後に手にするのは消費者の方々です。
 私たちエフピコは、消費者の方々とのコミュニケーションを大切にしながら、
 そこで得られた貴重なご意見を、より良い製品づくりに役立てています。

**展示会を通じた消費者の方々との
 コミュニケーションを大切にしています。**

全国各地で環境をテーマとしたさまざまな展示会が開催されています。エフピコではこれらの展示会に積極的に参加し、「エフピコ方式」のトレーリサイクルの仕組みや、「エコトレー」をはじめとする環境に配慮して作られた製品を紹介し、消費者の方々との連携、協働を通して環境保全活動の拡大につとめています。

また、これらの展示会は、エフピコからの情報発信だけでなく、展示会に来場された環境関連企業、行政、消費者、学生の皆さまとトレー回収や環境負荷低減の活動についての意見交換・情報収集を行う貴重な場ともなっています。

2006年度の環境展示会・イベント

日付	展示会名称	開催地
5月19日～20日	広島市「消費生活展 消費のつどい」	広島県
6月3日～4日	「環境の日」ひろしま大会	広島県
6月10日	マックスバリュ西日本(株)上郡南店「環境リサイクルフェスティバル」	兵庫県
7月13日～15日	2006広島バック&リサイクル展	広島県
7月17日	家族環境小学校 IN 福山港	広島県
7月22日	岡山県「おかやま・もったいない」晴れの国フォーラム	岡山県
9月16日～17日	(株)主婦の店「鶴岡市の環境フェア」	山形県
9月26日～28日	(株)コボックス「桑宗協働開催秋の展示商談会」	広島県
10月7日	ばってんリサイクル2006	長崎県
10月7日～9日	マックスバリュ西日本(株)加古川西店「リサイクルフェスティバル」	兵庫県
10月12日～14日	環境メッセ東北2006	宮城県
10月15日	総合卸センター創立30周年記念大バザール	広島県
10月20日～22日	米沢産業まつり	山形県
10月27日	アベックス展示会「エコトレーのPR」	大分県
10月27日～29日	伊丹市リサイクルフェア	兵庫県
10月27日～29日	さみゼロやまがた見本市	山形県
10月28日	相鉄ローゼン(株)「泉人まつり」	東京都
10月28日～29日	津山市「第30回くらしと消費生活展」	岡山県
10月28日～29日	飯田市主催の環境イベントに出展	長野県
10月29日	エコフェスタおかやま2006	岡山県
11月11日～12日	(株)ナカケー展示会「エフピコ方式リサイクルのPR」	鳥取県
11月19日～20日	トヨタ生協「良品フェスタ」	愛知県

展示会風景



消費者との懇談会を行っています。

私たちエフピコでは、共に環境保全に取り組む消費者団体の皆さまのご意見を伺ったり、トレーリサイクルについての理解を深めていただくため、消費者とのコミュニケーションの場に積極的に出席しています。

2006年9月には、福山市内で廃棄物削減の取り組みを続けている環境団体「ごみ5R推進本舗」の学習会に、福山市および近隣の市議会議員の方々とともに参加し、容器包装リサイクル法の改正や、福山市内でのゴミ分別のあり方について、意見を交換しました。



小学校での講演を行っています。

トレーリサイクルの仕組みと意義を広く理解していただき、環境保全への意識を高めていただくために、社外からの講演会等の要請は積極的にお受けしています。

2007年2月には、呉市立野路中切小学校からの要請に基づき、社員2名を派遣。全校生徒34名を前に、パンフレットやDVDなどを使ってトレーのリサイクルについて説明を行い、リサイクルへの協力を呼びかけました。

今後も要請に応じて、さまざまな学校・集まりにおいてトレーリサイクルの紹介を行うとともに、環境保全への意識向上に向けて努力してまいります。



親子見学会を行っています。

2006年8月、「福山リビング新聞社」との共催で、福山リサイクル工場にて「夏休み親子リサイクル見学会」を開催いたしました。

「福山リビング新聞社」は福山市を中心に、飲食店や企業情報を一般向けに紹介するフリーペーパーを発行する新聞社で、「リビングふくやま」を毎週約8万6千部発行しています。

今回の見学会は同紙にて募集した福山市内の親子連れ、約65組200名を対象としたもので、トラックからの荷下ろし、トレーの選別、エコトレーの製造に至るまで、トレーリサイクルの一連の流れをご覧いただきました。また、見学会の最後には、リサイクル素材で作られたパンスタンド等のリサイクルグッズをプレゼントいたしました。

今後も、リサイクルや環境保全への意識をより高めていくため、今回のような見学会を定期的を実施していく予定です。



株主とのかかわり

株主の皆さまに安心して投資していただけるよう、会社情報の開示および経営の透明性確保を通じ、株主とのコミュニケーションの充実に努めています。

株主と積極的なコミュニケーションを図っています。

私たちエフピコは、常に法令を順守しながら、適時・適正・迅速・公平に企業情報を開示し、さまざまなIR活動を通じて株主などの投資家とのコミュニケーションを積極的に行っています。

株主との重要なコミュニケーションの場である株主総会においては、十分な討議・検証ができるよう、招集通知の早期発送に努めています。また、機関投資家やアナリストに対して、年2回の決算説明会以外に、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、事業内容の理解促進に努めています。

株主以外のステークホルダーについても、決算・業績関連の概況については記者会見などを通じて、有価証券報告書・決算短信・四半期ごとの業績概要・決算説明会資料・プレスリリース等についてはホームページのIRコーナーで開示しています。



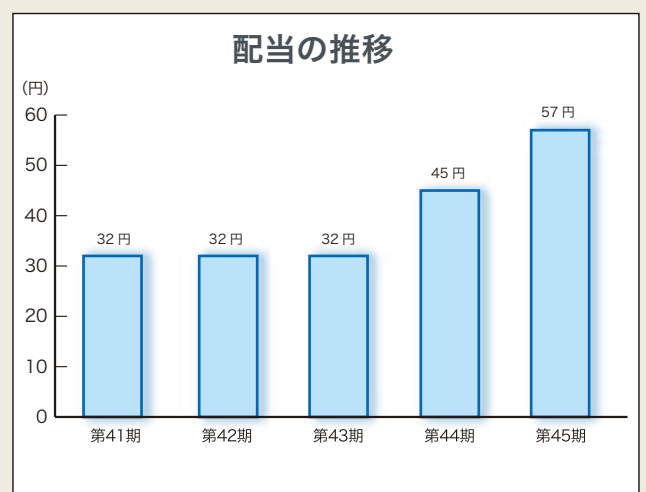
経営の健全性と、企業価値の拡大を目指します。

私たちエフピコは、収益性、株主価値向上の観点から、重点経営指標として、1株あたり利益200円、株主資本純利益率(ROE) 10%の実現を経営上の目標としています。また、既存事業の再編や効率化、グループ経営計画の諸施策を着実に実行し、あらゆるステークホルダーと協調しながら、企業価値・株主価値の最大化に向けて、努力を重ねてまいります。

安定した配当を続けています。

株主への利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図り、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを経営方針としています。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり57円の配当(うち中間配当28円)を実施いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は29.7%となりました。



従業員とのかかわり

企業のもっとも大切な財産は従業員であると、私たちエフピコは考えます。

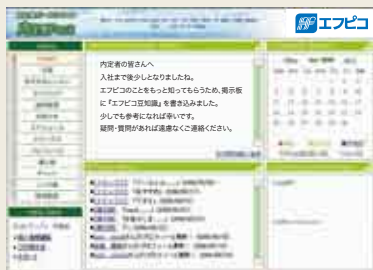
すべての従業員が、能力を存分に発揮できる環境を常に整えるために、

その教育や待遇についても充実を図っています。

採用内定者への入社前研修を実施しています。

新卒の採用内定者に対し、インターネットを利用した研修・オリエンテーションを行っています。これは、既存のe-ラーニングシステムを利用したもので、このサイトにアクセスすることで財務知識やITスキル、社会人としてのマナーなどを入社に先駆け学んでいただき、入社後に即戦力として活躍してもらうためのものです。

この専用サイトには、会社からの情報提供機能や内定者間でのコミュニケーション機能も備えており、新たに社会人となるための意識改革に有効に活用しています。



従業員の自己啓発活動を積極的に支援しています。

従業員の自己啓発活動を会社として支援するために、エフピコでは外部の自己啓発教育機関の講座の中から指定した講座に限り、修了時に費用の50%を補助する制度を整備しています。

講座内容は「EXCEL」「WORD」などのパソコン技能に関するものから「生産マネジメント」「キャッシュフロー分析」等の業務に関する講座、「ISO14001規格認証取得実務」等の環境関連講座、「語学」「ことばづかい」等の一般教養講座まで、幅広い分野から組み合わせることで取得することができます。

例年、多くの従業員が受講しています。



新入社員に向けた環境教育を行っています。

私たちエフピコは『エフピコ行動憲章』において、『良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う』と謳っています。それを実現するために、定期的に従業員向け環境教育を行っています。

また新入社員には、エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」についての講義やリサイクル工場の見学、生産工場や物流センターでのライン体験などの研修を通じ、環境への意識や企業市民としての良識を育てています。

さまざまな情報を全従業員で共有しています。

グループの従業員や関連企業に向け、エフピコのさまざまなニュースを掲載した『エフピコニュース』を定期的に発行・配布し、グループの従業員間における情報共有・社内意識の統一に役立てています。同ニュースには環境教育のコーナーも設けられており、グループの従業員に対する継続的な環境教育の場として機能しています。

また、エフピコグループを結ぶ社内PCネットワークでは、エフピコの環境事業に関する情報をタイムリーに発信しています。



海外の流通現場を視察する研修を行っています。

海外の流通現場の様子を学ぶために、入社5年以上の従業員を対象とした海外研修制度を設けています。ハワイやロサンゼルスなど、海外の主要都市において、スーパーマーケット等の視察を行うもので、1979年の制度開始以来、500人以上の従業員が参加しています。2006年度はハワイを訪問し、視察を行いました。



お客さまとのかかわり

私たちエフピコは、直接のお客さまである小売業・販売業の方々と良好な関係を保っていきけるよう、高品質な製品をお届けするだけでなく、マーケットの動向やその分析情報などの提供を通じ、お客さまのビジネスのお手伝いをしています。

新製品紹介と、売れる商品情報を提案するエフピコ・ミニフェアを全国で開催。

スーパーマーケット等の小売業・販売業の方々に、私たちエフピコの新製品を活用して、売れる商品や売り場の提案を行うイベント「エフピコ・ミニフェア」を、全国の主要都市で定期的開催しています。



2007年春のテーマは「さあ、食卓へ。」

2007年春には「さあ、食卓へ。」をテーマとした展示会を開催しました。少子高齢化や女性の社会進出、健康意識の高まりといった社会環境の変化に伴って日々変化している「売れている商品」の実例を、実際の売り場をそのまま会場に再現して説明しています。



2006年度エフピコ・ミニフェア開催実績

2006年 秋		2007年 春	
東京	8月22日(火)~23日(水)	広島	2月15日(木)
大阪	8月30日(水)	東京	3月6日(火)~7日(水)
福岡	9月5日(火)	仙台	3月15日(木)
名古屋	9月8日(金)	大阪	3月20日(火)
札幌	9月14日(木)	名古屋	3月23日(金)
仙台	9月21日(木)	札幌	3月29日(木)
		福岡	4月10日(火)
合計6都市	7日間	合計7都市	8日間
来場者数	約7,700名	来場者数	約10,900名
2006年度来場者数合計 約18,600名			

売り場をリアルに再現。

エフピコ・ミニフェアでは、新製品の食品容器に本物の食材を盛りつけ、店舗と同様の什器に並べることで、スーパーマーケット等の売り場をそのまま再現。ご来場いただいたお客さまに、売り場での見え方をご自身の目で体感していただくことで、新たな売り方のヒントにさせていただくことを目的としています。



専門家を招いたセミナーを実施。

会場内のセミナーコーナーでは、惣菜や店舗デザインの専門家といった外部講師により、さまざまなデータに基づいた、売上拡大のための講演会を開催しています。

また、会場内ではほかにも、エフピコ社員による、展示商品とリンクした売り場演出のプレゼンテーションを実施。全国に広がるエフピコのネットワークが収集したマーケットの動向に加え、社会環境の変化や商品開発力の向上によって、日々変化する「食」ビジネスの最新情報を、いち早くお客さまにお伝えしています。



地域とのかかわり

地域社会の一員として、周辺地域の皆さまと協調し、良好な関係を築いていくために。

各地の拠点において、地域の美化・活性化に積極的に取り組んでいます。

地域のイベント等に積極的に参加しています。

企業市民の一員として、地域のイベント等に積極的に参加し、地域活性化に協力しています。

2006年11月、「社会福祉法人『ゼノ』少年牧場」が主催する「第18回みどりバザー」が、「アリストめまぐま道の駅」で開催されました。

主催者である「ゼノ」は、知的障がい者の社会参加を目的とした団体で、その趣旨に賛同し容器の提供を続けています。当日は、たこ焼きや焼きそば、牛丼などが、エフピコの容器で提供され、大勢の来場者で賑わいました。



地域と連携し、使用済み食品トレーの回収を行っています。

私たちエフピコは、おつきあいのあるスーパーマーケット等の企業や学校などと連携し、使用済み食品トレーの回収を自主的・積極的に実施しています。回収したトレーは工場で「エコトレー」に再生することで、容器包装リサイクル法で推奨されている3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進に率先して協力しています。

近隣の清掃活動を定期的に行っています。

地域の皆さまに愛される企業であるために。そして、省資源を率先してリードしていく企業として。各地の工場・事業所では、「安全衛生委員会」のもとに組織された「地域安全衛生委員会」「職場別安全衛生会議」を中心に、工場周辺地域の清掃活動を定期的に行っています。

万一の事態に備えた訓練を行っています。

エフピコの工場では、可燃性のプラスチックを扱うため、万一の事態に備え、消防署の指導のもと、総合消防訓練を定期的を実施し、迅速な初期消火や避難ができるよう備えています。



地域とのかかわり

障がいを持った方のための職場づくりに協力しています。

地域に暮らす障がいを持った方々に働く場を提供することは、地域に根ざした企業としての、大切な使命の一つであると考えます。私たちエフピコでは、厚生労働大臣から「特例子会社」の認定を受けたグループ企業3社に加え、2006年度には「障害者自立支援法」の「就労継続支援A型」の事業認定を受けた2社の活動を開始。障がいを持った方々にも、健常者と同じく、働く喜びを得られる場の整備に務めるとともに、障がいを持つ方々と健常者が協力しながら幸せになるための、企業のあり方について考えています。

グループ企業3社で、「特例子会社」認定を受けています。

エフピコのグループ企業である「株式会社ダックス（千葉県）」「株式会社ダックス四国（高知県）」「株式会社ダックス佐賀（佐賀県）」の3社は、厚生労働大臣から株式会社エフピコの特例子会社の認定を受けています。

この3社は、障がい者が健常者と協力しながら、共に働くために設立された企業であり、充実した設備と、従業員の協力体制により、他の製造拠点と変わらぬ、高い生産性を実現しています。



株式会社ダックス（千葉県） 株式会社ダックス四国（高知県） 株式会社ダックス佐賀（佐賀県）



明るく、やり甲斐のある職場です。

「就労継続支援A型」認定を受けたグループ企業が活動をはじめました。

エフピコグループでは、障がい者の就労の可能性と職域を広げていくことを目的に、2006年10月に「広島愛パック株式会社」、2007年3月には「エフピコ愛パック株式会社」を設立しました。

この2社は、2006年10月に全面施行された「障害者自立支援法」の中で「就労継続支援A型」と呼ばれるプランに基づいて設立したもので、障がいを持つ方々も、健常者とまったく同等の立場で仕事に携わる勤務スタイルを採用しています。食品容器（プラスチック製折箱）の組立作業を主要業務としており、設立1年目となる現在も順調に操業を行っています。



エフピコ愛パック株式会社



広島愛パック株式会社



広島愛パック株式会社開所式風景（2006年10月）



障がい者が安全に作業できる環境を提供しています。

Voice 現場の声

障がいの方が、安全に、安心して働けるための環境づくりを進めています。

「愛パック」については、障がいを持った従業員が働く職場ということで、事故がないよう安全対策に細心の注意を払っています。健常者の従業員による指導はもちろん、エフピコの特例子会社「ダックス」から社員を移籍させ、ダックスで得た経

験を愛パック運営に活用しています。苦勞した点は、やはり意志の疎通ですね。彼らはどうしてもコミュニケーションに時間がかかったりナーバスな面もあります。一人ひとりの性格に配慮しながら、安全に、安心して働ける環境整備を進めていきます。



総務人事本部 人事部
川崎 大介

トレー回収の意義と効果を知っていただくために

工場見学を積極的に受け入れています。

資源の大切さと環境保全の重要性を学んでもらうために。私たちエフピコでは、工場見学を積極的に受け入れています。

全国のリサイクル工場には、工程を一望できる見学コースや130名収容出来るレクチャールームを設け、担当社員が、トレーのリサイクルを通して資源の有効活用と環境保全の重要性を説明しています。見学コースには、リサイクルによって生まれた製品を展示し、「ゴミ」から「資源」へ、そして「製品」へと生まれ変わる過程を理解いただけるよう配慮しています。

また、学校や地域コミュニティ等を会場としたトレーリサイクルの出前講座の要請にも応じています。



工場見学に来られた各地の小学生からたくさんのお手紙が届いています。



環境対策室
心石 圭子

見学担当者から

主に小学生を中心に工場見学の対応をしています。子どもたちにトレーのリサイクルについて興味を持ってもらうために、リサイクルに関するクイズを行ったり、トラックの模型やスライドを使いながら子どもたちに分かりやすく説明するように心掛けております。子ども

の頃からゴミの分別やリサイクルの知識を身に付けることにより、大人になっても今以上にトレーのリサイクルに協力していただければと思います。今後も一般の方とのコミュニケーションを図る大切な場として工場見学の受け入れを積極的に行ってまいります。

工場見学のご希望は、各工場にお問い合わせください。

■ 見学受入日時：月～金（祝日を除く）9：00～16：00(各工場共通)

工場名	住所	見学受付	1団体あたり 最大受入人数
東北リサイクル工場	〒981-3601 <small>おおひら</small> 宮城県黒川郡大衡村字平塚23-124	管理課 022-345-1146	40名
関東リサイクル工場	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	東京本社秘書室 03-5325-7300	120名
中部リサイクル工場	〒503-0205 <small>しもおおぐれ</small> 岐阜県安八郡輪之内町下大樽157-1	管理課 0584-69-2985	50名
福山リサイクル工場	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	本社秘書室 084-953-0001	130名
九州リサイクル工場	〒842-0102 <small>いしなり</small> 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動字二本松1800-1	管理課 0952-52-7877	50名

※インターネットでもお申し込みいただけます。 <http://www.fpco.co.jp>

エフピコのおゆみ

環境経営

1990年	9月	エフピコ方式のリサイクルスタート
	12月	笠岡リサイクルセンター稼働開始
1991年	10月	関東リサイクルセンター稼働開始
	11月	東北リサイクルセンター稼働開始 業界初のエコマーク認定
1992年	3月	エコトレー販売開始
	4月	環境対策室設置
	5月	中部リサイクルセンター稼働開始
	9月	九州リサイクルセンター稼働開始
	10月	学校回収スタート、社内のトレー回収スタート
1993年	2月	福山リサイクルセンター稼働開始
	12月	沖縄減容工場稼働開始
1995年		
1996年	2月	北海道リサイクルセンター稼働開始
	6月	トレー回収拠点5,000拠点到
	11月	沼津リサイクルセンター稼働開始
1997年		
1998年	4月	関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入
	7月	工場見学者累計100,000人突破
	8月	福山リサイクルセンターに自動素材選別機導入
1999年	4月	主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001 認証取得
	8月	トレー回収拠点6,000 拠点突破
2000年	5月	エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号) トレー回収量月間450トンを記録
	10月	各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更
	11月	関東リサイクル第1工場稼働開始 旧工場を関東リサイクル第2工場に改称
2001年	5月	東海リサイクル工場(旧沼津リサイクルセンター)閉鎖
	9月	福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設
2002年		
2003年	2月	関東リサイクル第1工場でISO14001 認証取得
	3月	岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	4月	関東リサイクル第1、第2工場を集約 関東リサイクル工場に改称
	5月	佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
	6月	岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
	10月	宮城県にて「エコトレー」が廃棄物再生資源利用製品に認定
11月	工場見学者 累計200,000人突破	
2004年	3月	広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録
	12月	「トレー to トレー」が第20類 & 第40類で商標登録(第4322974号)
2005年	4月	CO ₂ マネジメント委員会設置
	5月	「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号)
	8月	笠岡工場が岡山県エコ事業所として認定
	11月	笠岡工場 ISO9001 認証取得
2006年	3月	関東下館工場 ISO9001 認証取得 回収量月間550トンを記録
	4月	環境経営5ヵ年計画スタート
	10月	近畿亀岡工場 ISO9001 認証取得
2007年	3月	回収量月間579トンを記録

表彰

4月	バルティーズ研究会「会員部門最高得点票賞」受賞
10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて 東北リサイクルセンターが『平成4年度リサイクル推進功労者賞』受賞
3月	(財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて 『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞
2月	『兵庫県環境にやさしい事業者賞』受賞
6月	『第4回横浜環境保全活動賞』受賞
10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクルセンターが 『通商産業大臣賞』受賞
3月	(財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて 『通商産業省環境立地局長賞』受賞
6月	『ひろしま環境賞』福山リサイクルセンター受賞
9月	社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて 『こんな会社を誇りにしま賞』受賞
10月	日本食糧新聞主催『第6回日食環境資源協力賞』受賞 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクルセンターが 『リサイクル推進協議会会長賞』受賞
2月	代表取締役社長小松安弘が『毎日経済人賞』受賞
10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて『内閣総理大臣賞』受賞
7月	第4回「エコライフびわ湖賞」にて『アイデア部門優秀賞』受賞
11月	「エフピコ方式」の活動が、「ウエステック大賞 2003」にて 『事業活動部門賞』受賞
9月	「愛・地球賞」受賞
4月	第1回「容器包装 3R 推進環境大臣賞」 製品部門最優秀賞受賞



環境関連法規制・食の安全

8月	IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が地球温暖化を警告
10月	「資源の有効な利用の促進に関する法律」(通称：リサイクル法)施行
6月	リオデジャネイロで第1回地球サミット開催
2月	国連が「持続可能な開発委員会」を発足
11月	「環境基本法」施行
7月	製造物責任法(PL法)施行
4月	容器包装リサイクル法施行(ペットボトル、ガラス)
12月	COP3(第3回気候変動枠組み条約締約国会議)が京都で開催 「京都議定書」採択
7月	官報(号外第143号)容器包装リサイクル法にて当社のリサイクル及び 「トレー to トレー」の再商品化が明文化される。
1月	「ダイオキシン類対策特別措置法」施行
4月	「容器包装リサイクル法」の全面実施(その他紙及びその他プラが追加)
5月	O-157 発生
6月	「循環型社会形成推進基本法」施行
4月	「グリーン購入法」施行
	「家電リサイクル法」施行
5月	「食品リサイクル法」施行
9月	BSE 発生
4月	「PRTR法」施行
	「建設資材リサイクル法」施行
2月	「土壌汚染対策法」施行
4月	「改正省エネ法」施行
6月	「食品安全基本法」施行
7月	食品安全基本法施行に伴ない内閣府に食品安全委員会設置
1月	鳥インフルエンザ発生
1月	「自動車リサイクル法」施行
2月	「京都議定書」発効
4月	「改正省エネ法」施行 「改正温対法」施行
4月	「改正容器包装リサイクル法」施行

編集後記

エフピコ「CSR Report 2007」を最後までご覧いただき誠にありがとうございました。2007年版は「CSR Report」と名称を変え、「環境経営5ヵ年計画」に基づいた活動を中心に報告させていただきました。

今後も経済、環境、社会の各側面について積極的に情報開示を行い、ステークホルダーの皆さまに分かりやすく、かつ読み応えのあるレポートにしていきたいと思います。

皆さまのご意見を参考に継続的な改善を進めてまいりますので、当レポートに添えましたアンケートにお答えいただければ幸いです。

今回は2008年6月発行を予定しております。発行にあたりご協力いただいた社内外の関係者の皆さまに感謝いたします。

2007年8月

環境対策室 歌島 秀明

CSR Report 2007

発行日：2007年8月

制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036

東京都新宿区西新宿六丁目8番1号

新宿オークタワー(総合受付36階)

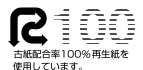
TEL 03-5325-7800 FAX 03-5325-7811

E-mail: EcoTray-3R@fpco-net.co.jp

ホームページ: <http://www.fpco.co.jp>



エフピコは「エコトレー」でチーム・マイナス6%に参加しています。



- 本 社 〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目12番15号 TEL(084)953-1145
- 東 京 本 社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F TEL(03)5320-0717
- 大 阪 支 店 〒560-0083 大阪府豊中市新千里西町1-1-8 第一火災千里中央ビル6F TEL(06)6835-5370
- 札幌 ●仙台 ●新潟 ●静岡 ●北陸 ●名古屋 ●広島 ●高松 ●福岡

ホームページ <http://www.fpcoco.jp/>

eメール EcoTray-3R@fpcoco-net.co.jp